

平成29年度 事業報告

社会福祉法人 パロード福祉会

事業報告 目次

I. 平成29年度事業の概要	
(1) 法人運営	3
施設運営	
II. 各部報告	
(1) 看護部	
①看護	6
②生活支援	10
③病棟助手	12
(2) 診療部	
①薬剤科	14
②検査科	16
③リハビリ科	18
④栄養科	21
(3) 在宅支援部	
①生活介護事業（さくらんぼホーム）	23
②多機能型事業（通園センターさくらんぼ）	26
③多機能型事業（通園センターつくしんぼ）	28
④訪問介護事業	30
⑤相談支援事業	33
(4) 総務部	
①総務課 事務	36
②総務課 ケースワーカー	37
③庶務課 障害者職業コンサルタント	38
④庶務課 家政	40
⑤庶務課 管理	41
III. 各委員会報告	42
IV. 資料	47

I 平成29年度事業の概要

(1) 法人運営

平成29年度は改正社会福祉法の本格的な施行により、ガバナンスの強化、透明性の向上、財務規律の強化等、組織の運営に関わるさまざまな変革が求められた一年となった。議決機関となった評議員会、財務諸表・現況報告書・役員報酬基準等の公表、特にいわゆる内部留保の明確化により社会福祉充実残額が発生したことで作成・実施となった社会福祉充実計画は、当法人の今後の運営計画の大きな契機となった。

また、平成29年10月29日には設立20周年となる記念式典を皆さまのご協力により無事に催すことができた。当初は定員45名の治療や訓練で開始した入所事業も、この20年の障害者福祉法をはじめとする制度の改廃等の中で、在宅で生活をされている方への送迎通所サービス、地域の歯科診療への協力、相談支援活動など多目的な運営となり、今では高知県西部地域の障害者福祉のセンター的役割を果たすまでになったことに、心より感謝申し上げる一年となった。

(2) 経営関係

法人全体としては、当期資金収支差額約△730万となった。これは、事業活動収入は前年度より微増であったが、医師配置の安定化にかかる人件費増の継続、在宅支援事業の収支状況が改善できていないことに課題があると考える。重度の障害児者サービスを提供できる事業所は高知県西部では当法人の事業所しかない現状の中、広域の送迎通所サービスを行い支援しているが、経営的に必要な利用者数には届かず困難な状況が続いている。在宅事業は地域的な特性もあり収支の改善は難しい状況ではあるが、30年度は在宅事業の開所日数を増やすことを検討し、利用者数の増を図っていく必要があると考える。

(3) 施設運営

(利用者の処遇改善)

今年度は、入所病棟のテラスを増設し利用者の方の日中活動のスペース整備を行った。また、利用者の方が安心して生活できるよう防犯システムの導入を行い、防犯カメラ、夜間出入口の警備センサー管理が出来るようになった。

(事業運営)

1) 医療型障害児入所施設・療養介護事業

昨年度に続き今年度も、ノーリフト推進を施設全体の方針として進め、介助用リフト、ストレッチャー、スライディングボード等の福祉機器の積極的な活用、更に今年度はマルチグローブを介助に携わる職員全員に支給、ノーリフト推進委員会を中心に活動を行った。

開設時から使用してきたリフト車輌の更新も行ったことで、入所利用者の方の外出も安心して実施できるようになった。

2) 短期入所事業

29年度は医療度の高い新規利用者の受入れがあり、他利用者との利用調整が必要であった為、利用日数の増加とはならなかった。日中一時の利用は、2名の新規利用が始まり利用日数は増加となった。

※1日の平均受入れは、宿泊：約2.8人、日帰り：約2.2人、となっている。

3) 在宅支援事業

重症心身障害児者を対象とした「障害児通所支援事業」「生活介護事業」、発達障害児を対象とした「障害児通所支援事業」、重症心身障害者を主な対象とする「居宅介護・重度訪問介護事業」、障害児者の「相談支援事業」、これら在宅事業全体としては高知県西部の様々な利用ニーズに、各事業所が相互に連携し合いながら応じていくことができた。

また、【ヘルパーステーション】の訪問介護事業・介護予防事業は、ヘルパーの必要数確保が難しくなり今年度で廃止することとなった。これまで利用されてきた方々には近隣の訪問介護事業所に移行していただき、これまで同様のサービスが継続出来るよう引継ぎをおこなった。

在宅支援部の各事業が宿毛市、四万十市、土佐清水市を主とした広域サービスを展開しており、送迎、訪問にかかる時間と利用者ニーズの少なさが事業運営の安定化に大きな課題となっている。

【平成 29 年度の主な活動】

1：社会福祉法人幡多福祉会 開設 20 周年記念式典・祝賀会

開催日時　　：平成 29 年 10 月 29 日（日）

式典会場　　：社会福祉法人幡多福祉会　幡多希望の家

式典 13:00～15:00

祝賀会会場　：スワロー会館

祝賀会 18:00～

(記念式典)

1. 開会の辞
2. 物故者默とう
3. 開会の挨拶
4. 豊かな除幕式
5. 来賓祝辞
6. 来賓紹介

(祝賀会)

1. 開会挨拶
2. 来賓祝辞
3. 表彰式
4. 職員代表挨拶
5. 乾杯
6. 懇談・マジックショー

2：第 6 回　幡多希望の家・中山地区　合同防災避難訓練

～ 福祉避難所開設訓練　炊き出し～

日時：平成 30 年 3 月 18 日（日） 10:00～14:30

場所：社会福祉法人幡多福祉会　幡多希望の家　地域交流ホーム

参加団体：幡多希望の家　中山地区

訓練内容：①災害時対応バルクシステムを使用した炊き出し
②パーテーションを使用した避難スペース作り

目的　　：災害時対応バルクシステムの操作方法の確認（ガスの取扱い）

施設の備蓄品・器具の活用（保存用の飲料水・災害用品）

参加人数　：26 名（施設職員 14 名　中山地区：10 名　外部見学者：2 名）

【使用物品】

炊き出しステーション
炊飯器（ガス式） 5 升炊き
避難所間仕切りボード「かんたん君」950×2,200 mm
上記床材 1,000×1,000 (mm)
e.co 段ベッド 1,800×800×300 (mm)

II 各部報告

(1) 看護部

看護部 年度目標

- 1) 看護部職員一人一人が責任のある良質な看護及び療育支援が提供できる。
- 2) 専門職として個々の目標を持ち、スキルアップを目指し看護・支援の質の向上に努める。

評価： 今年度 1名の利用者が永眠された。開設から 20 年がたち、入所利用者の平均年齢も同様に上昇しており、加齢に伴う「成人病」等も視野に入れた、看護・生活サポートの重要性を改めて考えさせられた年でした。入所は 2 名受け入れることが出来、新規の短期入所者の利用も開始できたが、人工呼吸器使用者であったりと、医療度の高い利用者が年々増加しており看護に求められる対応力や、生活支援に求められる療育の充実が求められ、研修等を活用しながら求められる看護・支援を提供してきた。スキルアップの面では、毎月主任者以上の会を開催し、問題点の共有、指導方法の共有化を図ってきたことが定着出来、看護・支援の質の向上に繋がったと考える。

①看護科

- 1) 事故予防・対策に全員で積極的に取り組む。
 - ① 事故報告書をもとに、原因の追及を行い、未然に事故防止ができる体制作り、事故防止対策に取り組む。
 - ② 病棟安全推進委員会の活動を積極的に行う。

評価： 本年度は、骨折症例 2 例の報告あり。1 例目 H29.9.18、転倒により左大腿骨頸部骨折し、H29.9.19 けんみん病院で観血的骨接合術を行い術後の経過もよく 10/3 退院される。入所後からは、リハビリスタッフを中心にトランスファーや歩行方法など統一化し支援を行ってきたが、年齢的な問題もあり以前の A D L までの回復ではないが再骨折することなく現在に至っている。2 例目 H30.3.28、左鎖骨から背部にかけての内出血を発見、H30.3.29 奥谷整形外科受診し、左鎖骨遠位端骨折と診断。バストバンド着用で患部の安静を図り保存療法とし H30.4.24 奥谷整形外科再診にて治療終了となる。今年度も安全推進委員及び看護を中心とした事故報告書が提出あれば 2 日以内には緊急カンファレンスを開催し、意見交換を行い原因究明と対策を立て早期対応を行った。症例によっては原因の追究が出来ないものもあり、予測される原

因をスタッフ間で話し合い今後に向けての検討を行ってきた。今年度からは、事故に繋がりうるヒヤリ報告書に関してもカンファレンスを行い、事故を起こさないように対策を立てていくように取り組んでいたが、骨折の報告が2例も出てしまった。安全を重視すると利用者さんの行動範囲も狭まるが、今後も安全を重視し利用者さんに苦痛のない楽しい生活が送ってもらえるよう緊急カンファレンスを通して、日々の見直し・行動の振り返りを行いながら事故ゼロを目指し取り組んで行く必要がある。

2) 感染予防に努める。

- ① 感染症の早期発見・早期治療により、重症化予防する。
- ② 感染委員、看護が中心となり職員全体で感染予防に取り組む。
- ③ 感染マニュアルの見直しを行い対応一律化する。

評価： H30.2月に在宅利用者が発熱し後日インフルエンザAを発症し、緊急カンファレンスを実施し、職員の媒介の可能性が大きいと考えられ、標準予防策の徹底を図り他への感染は防ぐことが出来た。

病棟内の感染防止策に留まらず、施設全体を含めた感染マニュアルの作成が今後の課題である。

3) 看護計画書の活用・見直し。

- ① 当施設独自の看護計画疾患別マニュアル作成を行う。
- ② 計画・評価の情報は、家族と共有する。
- ③ 看護計画に基づいた看護記録を1日1回行う。

評価： 短期看護計画の立案及び日々の看護記録に関しては、徐々に定着してきているが、看護記録内容の充実性と定期的な評価の徹底が大きな課題である。

4) 人材育成及び人材確保と定着。

- ① 新人・中堅職員の育成。
- ② 的確な判断力を身につけることができる。
- ③ 看護学校への募集活動と説明会の参加
- ④ 新人サポート体制の強化

評価： 新人看護師指導目的で、新人看護師到達目標評価チェックシートの作成を行い、自己評価及び他者評価を1か月・3か月・6ヶ月・1年単位で施行し評価に関しては、看護統括主任を中心に看護主任調整会で情報の共有を行い指導の統一化に努めた。中堅職員に関しては、新人教育を実施することで自己の振り返りが出来ていたと考えられる。また、中堅職員に対しては委員会の中心となり取り

組んでもらっている。

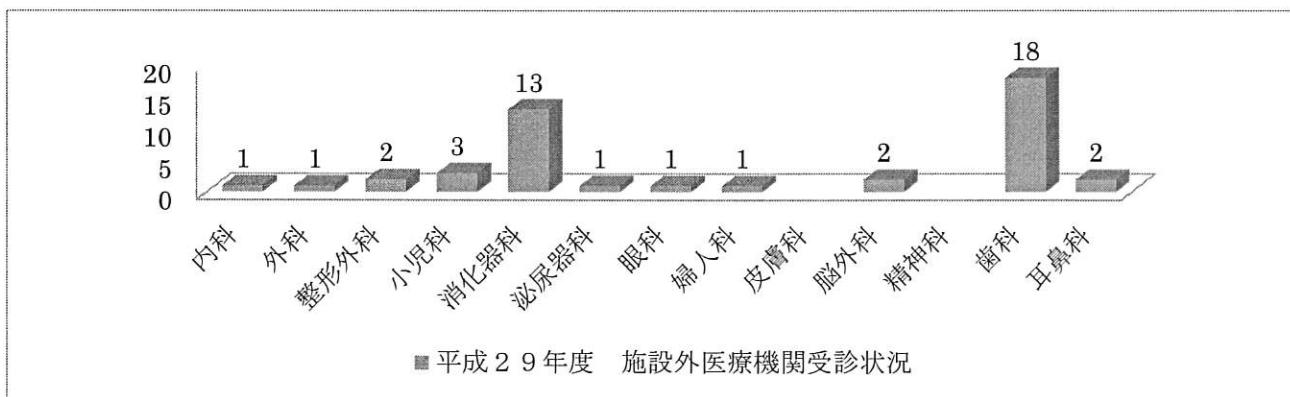
5) 看護技術や知識の向上に向け取り組む。

- ① 施設内外の研修会には、積極的に参加し新しい情報を取り込む。
- ② 外部研修後には、伝達講習を設け看護科全体で情報の共有を行う。

評価： 新人職員を対象に外部の研修へ参加を勧め、新しい情報を伝達講習の中で得ている。しかし、外部研修内容にも限りがあり専門的な研修はあまり受けることが出来ていない現状である。今後も、専門性に留まらずに看護の各部門への研修会へ参加し資質の向上を目指していきたい。

【平成29年度 施設外医療機関受診状況】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科			1										1
外科							1						1
整形外科		1						1					2
小児科	1						1				1		3
消化器科	2				1	3			3	2		2	13
泌尿器科	1												1
眼科							1						1
婦人科								1					1
皮膚科													
脳外科				2									2
精神科													
歯科		2	9	1			1	1			4		18
耳鼻科				1						1			2
合計	4	3	10	4	1	3	4	3	3	2	1	7	45

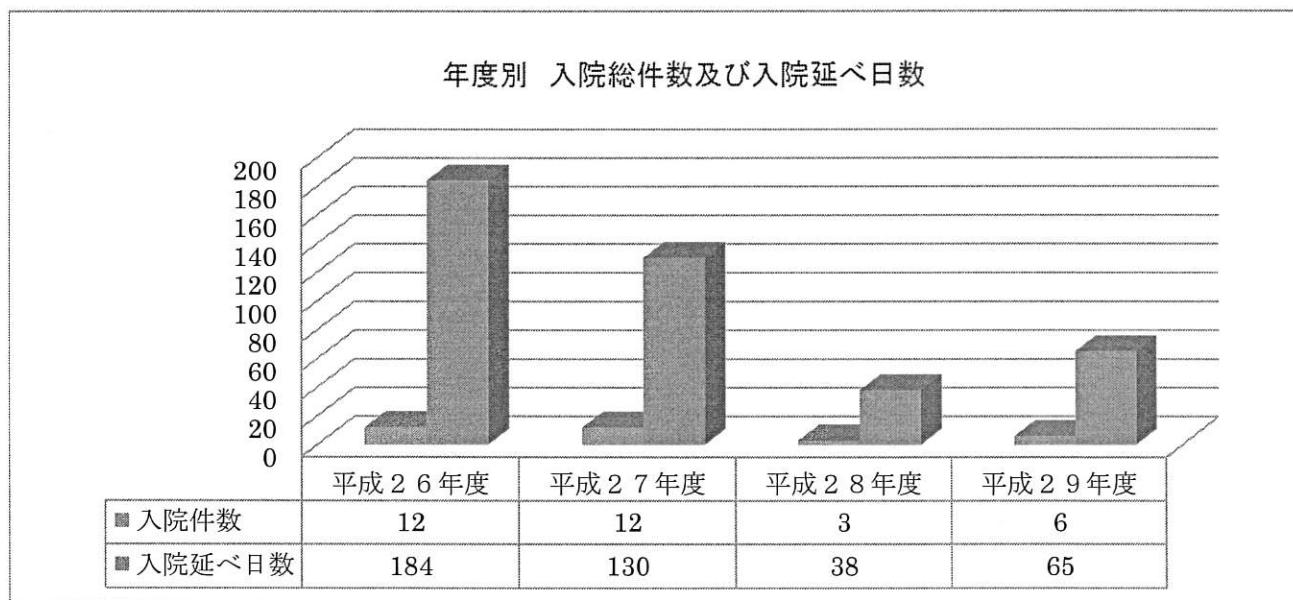


【平成29年度施設外医療機関入院状況】

診療科	性別	年齢	入院理由	入院期間	日数
外科	男	61	イレウス	4月13日～4月19日	7日
内科	女	21	肺炎	5月8日～6月2日	26日
外科	男	62	イレウス	6月27日～7月4日	8日
整形外科	女	75	骨折	9月18日～10月3日	16日
消化器科	男	18	胃瘻拡張	1月25日～27日	3日
消化器科	女	33	胃瘻造設	3月29日～4月2日	5日

【年度別入院総件数及び入院延べ日数】

年度	入院件数	入院延べ日数
平成26年度	12	184
平成27年度	12	130
平成28年度	3	38
平成29年度	6	65



【往診による施設内診療 延べ件数】

耳鼻科	168
歯科	39

②生活支援科

【事業報告】

○取り組み概要

平成29年度は、「生活の支援の充実」を目標にし、利用者一人一人に有効に関わる時間が持てるように実践してきた。利用者の好みや、ベッドサイドでも簡単に取り組める内容を考え、各グループ担当を中心とし、より良い生活につなげるよう実践してきた。結果、利用者と密に関わる時間が増えた事は良かったが、関わりやすい利用者と重症者との差が大きく出た事が今後の課題である。

また、4年前からノーリフト委員会を立ち上げ取り組んできた結果、リフトを使用する事が定着しつつあり、今年度腰痛での長期休養者も出なかつた。

支援職員の不足に伴い、職員確保が難しかったが、職員それぞれ協力し年度計画どおりほぼ達成出来た。

○平成29年度目標と評価

1) 人材育成

①基本の徹底

基本の徹底の面では、主任を中心とした指導職員のレベルアップを図る。

定期的な面接、会議を行い、現状把握を行う。(意識改革)

②施設内外の研修に積極的に参加し、現場の実践につなげる。

研修後、伝達講習を行いフィードバックの常態化を行う。

評価 : 基本の徹底は課題が多く、利用者が高齢化・重度化していく事での業務の増大に振り回されているのが現状である。 解決策として、日々の業務の流れを確認しながら基本業務が怠らないように支援会等で修正を行った。

新人教育は、新人研修への参加やプリセプターによる指導・面接を行い細かい指導も行っている。

施設外研修について

- ・サービスの向上を目指し、日程調整に努め、県内外の研修に参加した。

(平成 29 年度 施設外研修)

ミュージック・ケア全国大会	1名
第 26 回四国重症心身障害研究会	2名
福祉職場の中堅職員ファーストステップ研修～中堅職員としての役割と責任を身につける～	2名
地域災害ナース育成研修	1名
平成 29 年度相談支援従事者「初任者研修」	1名
平成 29 年度第 1 回ふくし就職フェア	3名
ノーリフティングケア推進リーダー養成研修	2名
平成 29 年 高知県サービス管理責任者及び児童発達管理責任者研修	1名
第 37 回 琵琶湖学園実践研究発表会	1名
ケア基本研修 (ケアマネジメントとケアプラン)	2名
ケア基本研修 (医療との連携)	2名
人の尊厳を考えるベーシック研修	2名
平成 29 年度第 2 回ふくし就職フェア	2名
高知家統一ケアセミナー幡多地区説明会	1名

2) 生活支援の充実

- ①利用者の健康状態を把握し、ニーズの把握に努め支援の充実を図る。
- ②個別支援計画の活用、見直し
 - ・アセスメントを充実させ、利用者の個々に応じた計画とする。
 - ・年間計画をきちんと立案し、業務に流されず支援の充実に努める。
 - ・記録の書き方の統一を図り、電子カルテに積極的に記入する。
- ③成人にふさわしい支援を確立し、生活の場としての豊かな環境作りを目指す。

評価： サービス管理責任者が中心となり、日常生活全般のアセスメントを行い適切な個別支援計画を作成し、その計画に対し他部所とケア会議を重ねて評価してきた。評価については、保護者・後見人の意向の確認も行った。

取り組み内容は、年間計画に基づいた取り組みを実施することが出来た。今年度は、経管栄養者にも今までと違った取り組みを考え、注入食を看護と一緒に工夫しバレンタインデイにチョコレートを注入する取り組みを行った。

長時間の外出が難しくなっている利用者には、午前買い物・午後は、福祉避難所でレクを行う等利用者のニーズに合わせた取り組み内容に変更して対応した。各月の取り組みも、季節に合わせた内容を考え計画する等利用者も楽しめる内容になった。また、ふれあい外出も継続して行い、普段家に帰れない利用者が家族と自宅でゆっくり

過ごす時間が持てたと喜ばれた。

利用者のニーズに応じ工夫し対応してきたことは、生活の場としての豊かな環境作りに繋がったと評価できる。

今年度は、3校の交流学習があり散歩やゲーム等を楽しんだ。利用者も外部との交流を楽しみにされていてとても良い交流の場となっている。利用者との交流だけでなく、利用者体験や福祉用具体験をおして学生にも良い学習の場が提供出来ている。

(体験学習の受け入れ)

・宿毛中学校 2名 ·大月小学校 4 5名 ·宿毛東中学校 9名

3) 環境管理と職員の体調管理

- ①病棟内の整理整頓を任せにせず、自ら行えるよう心がける。
- ②利用者の安楽・安心な日常生活の提供のサポートと、職員の腰痛予防の二つの側面からも、リフトを中心とする福祉機器を積極的に活用していく。

評価： 病棟の環境整備は、十分とは言えず年々物品が増える中、場所の確保に苦労している。

ノーリフト委員を中心に、福祉用具を積極的に活用する職員も増え、腰痛で長期休養する職員も出なかつた。福祉用具が、介助負担の軽減にも役立っていると思われる。マルチグローブの使用状況は、十分ではなく今後勉強会等も取り入れて行きたい。

③生活支援科 病棟助手

【事業報告】

- 利用者の方が快適で安楽な生活を過ごせるよう、看護・支援と共に協力し生活全般にわたりサポートしてきた。
- 補助職員のサポートは、助手の中で連携を取り働きやすい環境づくりができた。
- 支援職員不足の場合も、協力し十分サポートを行った。

平成 29 年度 施設内・外 支援実施表

施設外				施設内		
月	日	場所(催し名)	行先	月	日	イベント名
4	1	ふれあい外出・レスとらん一風	宿毛市	4		希望の家祭り
	5	花見	宿毛市		29	風船バレー
	9	お楽しみ外出花見(フジ・咸陽島)	宿毛市		30	ゲーム大会
	13	レストラン・聖	宿毛市			
	15	花見	宿毛市			
	22	ららぽーと	宿毛市			
5	3	運動公園・病院	宿毛市	5	28	ミュージックケア
	10	宿毛浸水公園	宿毛市			
	24	釣り・宿毛新港	宿毛市			
	27~28	高知県障害者スポーツ大会	高知市			
	27	レンタル店・ゲオ	宿毛市			
	30	ピクニック・松軒山	愛南町			
6	4	ピクニック・紫陽花鑑賞(安並)	四万十市	6	8	スヌーズレン
	11	ふれあい外出・ららぽーと	宿毛市		10	風船バレー
	28	フジグラン四万十・貢物	四万十市		24	紫陽花飾りつくり
	29	マルナカ	四万十市			
7	20	寿司一貫・サニーマート	四万十市	7	8	スライムつくり
	29	フジグラン四万十	四万十市		9	七夕飾りつくり
8					16	夏祭り
					23	プール遊び
					12	水遊び
					17	プール遊び
					19	かき氷づくり
					20	ミュージックケア(外部講師)
9				9	20	敬老会
					23	影絵
10	4	ドライブ(家族)・咸陽島	宿毛市	10	19	運動会
	11	ららぽーと	宿毛市		24	通園合同運動会
	18~19	一泊旅行(野市動物公園)	高知市			
	25	下田公園・ひいらぎ	四万十市			
11	4	ツタヤ買い物(家族)	四万十市	11	12	秋祭り
	11	障碍者陸上競技大会	宿毛市		18	足浴
					19	焼き芋
12				12	13	喫茶店
					17	クリスマス会
					24	もちつき
				1	1	書初め
					17	足浴
					27	マッサージ
13				2	4	節分
					11	クッキング
					14	クッキング
					20	カーリング大会
				3	3	bingo大会
					4	カーリング大会
					7	クッキング
					21	カラオケ大会
					24	ズヌーズレン

(月間取り組み)

クッキング	毎月 第 4 土曜日
活動	毎月 第 3 火曜日
感覚統合	毎月 第 2 土曜日
お茶会	毎月 第 4 日曜日

(2) 診療部

①薬剤科

年度目標

医薬品の安全使用の徹底、及び職員への喚起

評価

「医薬品の安全使用のための業務手順書」に従って、業務を行ってきた。また、医療安全のための医薬品に関する職員研修を1回行った。

業務内容

- ・患者・利用者への医薬品調剤
- ・医薬品の管理
- ・各委員会活動（感染対策、安全管理対策、褥瘡対策委員会、安全衛生、栄養サポート会）への参画
- ・医薬品に関する職員研修

「医療安全対策職員研修（抗てんかん薬について）」	
平成29年9月28日	参加数 59名

- ・地域薬剤師会

幡多薬剤師会研修会（1回／月）への参加

前年度に比べ、外来処方箋枚数は11.5%減、入院処方箋枚数は11.3%増、総数としては前年度と同じ、注射処方箋は3%増であった。

外来処方の減少はてんかん専門医の体調不良による他院への紹介があった。

薬品購入価格は約8%の減額である。外来処方箋の減少の為と考えられる。

ジェネリック医薬品への変更が大して出来なかつたので、来年度は医師の了解を得ながら変更していきたい。

インフルエンザワクチンは在庫不足の為、予約した数が入荷できなかつた。しかし昨年に比べ外来におけるワクチンの接種費用が上がつたためか、外来の希望者が半分になり全員に供給できた。

表1 平成29年度 処方箋枚数、調剤数、注射処方箋枚数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
外来	枚数	71	64	72	65	68	64	50	60	69	68	41	57	749	62
	剤数	159	149	156	140	147	141	123	144	151	151	89	132	1682	140
定期	枚数	92	115	93	93	117	94	95	117	92	69	69	113	1159	97
	剤数	347	418	359	367	494	388	388	459	384	313	261	488	4666	389
入院	枚数	76	97	64	111	79	61	90	73	83	67	92	62	955	80
	剤数	76	104	71	119	87	64	93	76	87	68	106	65	1016	85
臨時	枚数	168	212	157	204	196	155	185	190	175	136	161	175	2114	176
	剤数	423	522	430	486	581	452	481	535	471	381	367	553	5682	474
合計	枚数	239	276	229	269	264	219	235	250	244	204	202	232	2863	239
	剤数	582	671	586	626	728	593	604	679	622	532	456	685	7364	614
注射	枚数	46	60	30	62	62	48	73	87	56	34	98	44	700	58

表2 医薬品採用リスト（平成30年3月）

内服薬	160 品目
外用薬	72 品目
注射薬	68 品目
合計	300 品目

表3 インフルエンザワクチン接種状況（平成29年11月7日～30年1月13日）

入所者	46人
在宅支援	14人
職員	111人
外来	61人
合計	232人

②検査科

(検査件数)

	生化学	検尿	沈渣	検血 分類	CRP	薬物濃度	細菌	ECG	EEG	便潜血	迅速	検便
年度	7601	557	396	1075 308	919	181	180 46	149	15	163	156	119

月/項目	生化学	検尿	沈渣	検血 分類	CRP	薬物濃度	細菌	ECG	EEG	便潜血	迅速	検便
4	189 1365	15 15	101 62	97	60	8 7	1	1	46	5	8	
5	368 1647	145 23	223 21	98	14	11 4	115	1	115	2	13	
6	276 74	21 21	70 16	66	23	11 9	0	1	0	2	10	
7	342 102	26 26	67 29	65	12	15 3	1	1	1	3	9	
8	314 44	41 41	67 19	62	12	22 3	0	4	0	2	10	
9	198 1047	49 48	112 65	106	11	16 5	0	1	0	1	9	
10	374 20	91 53	96 17	92	15	24 3	0	1	0	17	9	
11	269 37	38 38	79 19	78	3	22 1	1	0	0	20	10	
12	258 38	41 41	75 22	75	7	15 1	0	1	1	16	10	
1	195 21	28 28	52 8	51	9	9 0	0	3	0	21	9	
2	208 15	36 36	86 24	84	5	10 4	1	0	0	41	11	
3	177 23	26 26	47 6	45	10	17 6	30	1	0	26	11	
合計	3168 4433	557	396	1075 308	919	181	180 46	149	15	163	156	119

※生化学検査下段は外部委託検査数

※細菌検査下段は真菌直接鏡検数

MRSA・緑膿菌検出数

月	MRSA	緑膿菌
4	3	4
5	3	4
6	4	4
7	7	3
8	5	7
9	4	6
10	6	7
11	3	6
12	3	2
1	3	3
2	2	3
3	3	3
合計	46	52

細菌検査材料数

材料	数
喀痰	100
咽頭	1
鼻腔	1
口腔	1
尿	72
便	2
浴槽水	3
合計	180

主な検出菌数

菌名	数
緑膿菌	52
MRSA	46
G群溶連菌	38
大腸菌	36
B群溶連菌	16
セントラルヒンジ	14
腸球菌属	12
黄色ブドウ球菌	10
α連鎖球菌	10
エンタロクテス・ヒルバウム	9
モラキセラカクテル	7
MRCNS	6
インフルエンザ菌	5

- ※ 迅速検査 156 件 (インフルエンザウィルス抗原 65 件(41.67%)・RS ウィルス抗原 21 件(13.46%)・アデノウィルス抗原 21 件(13.46%)・ヒトメタウィルス抗原 20 件(12.82%) A 群 β 溶血性連鎖球菌 17 件(10.9%)・ノロウィルス抗原 5 件(3.2%)・ロタウィルス抗原 5 件(3.2%)・マイコプラズマ抗原 2 件(1.28%)である。
今年度、在宅支援部でインフルエンザの発症がみられ受け入れ中止処置がとられた。
- ※ 細菌培養検査材料は、①喀痰 55.6%(前年 73.8%)②尿 40.0%(前年 15.1%)が主であり、尿培養が増加した。MRSA は喀痰(95.65%)と尿(4.35%)からの分離。緑膿菌は喀痰(82.7%)尿(15.4%)鼻腔(1.9%)からの分離である。今年度は、当施設では初めて分離された細菌(耐性菌ではない)や真菌がみられた。レジオネラ菌定量培養水質検査 3 ケ所(通園浴槽水・通園浴槽水・ミスト浴水)は陰性。
- ※ 入所利用者定期検査項目に腎機能評価としてシスタチン C(筋肉量の影響を受け難い)貧血(フェリチン)を追加した。栄養評価を含め、各職種が検査データに目を通してくれ嬉しく思う。
- ※ 職員健康診断問診票より自覚症状として多い順に①肩こり 35.96%(前年 28.18%)②腰痛 27.19%(前年 27.27%)③目が疲れる 26.32%(前年 19.09%)④易疲労 20.18%(前年 23.64%)⑤頭痛 16.67%(前年 20.90%)となっており、昨年度に比べ①+7.79%③+7.23%増加②ほぼ同じ④⑤は減少している。(増加の一因として電子カルテ・パソコンによる眼精疲労、眼精疲労からくる肩こりがあるのではないだろうか?)
喫煙率 38.59% (前年 39.09 %) 定期的に歯科受診 (1 回/年) している職員 26.32 %
- ※ 脳波勉強会(医師の体調不良により 9 月中断している)は、H30 年度 5 月より再開予定
- ※ 実践報告にあたり、リハビリ科スタッフと共に取り組むことが出来たことは、他職種の視点・考え方(捉え方)を知る事ができ良い刺激となった。
- 来年度の目標：チーム医療の一員として、コミュニケーションを取りながら新しい知識を吸収し、学び続ける姿勢をもち、笑顔で過ごす。

(3)リハビリ科

年度目標

- ①施設・在宅の利用者の方に対して、PT・OT・STのそれぞれの専門性を活かしたリハビリテーションの提供を行う。
- ②他部署及び外部の関係機関と情報を共有しながら連携を図る。

評価

今年度は、PT2名・OT2名・ST2名の6名体制でスタートし、PT・OT・STのそれぞれの専門的な関わりを担いながら、施設利用者および在宅の利用者の方々へのリハビリテーションの提供を行っていた。しかし年度途中（6月・10月）よりST2名が相次いで退職し、PTとOTの4名での対応となった。

PT（理学療法）では昨年同様、病棟の経管栄養の利用者を中心に、医療入院される在宅利用者の方も含め、呼吸管理での対応が主な関わりであった。日常生活においては、安楽に過ごしていけるようポジショニングの工夫や排痰を目的とした腹臥位姿勢の導入を行った。外来においては、重度運動障害の脳性麻痺などの方に加え、発達障害における運動能力の向上・改善を目的とした利用者の方が年々増えており、個々の特性を理解しリハビリを提供していくことで、子どもの能力を最大限伸ばし、豊かに成長していくような支援を行った。また地域で生活されている子どもさんについては、色々な関連機関との連携をとっていく必要性があった。

OT（作業療法）では、施設入所されている利用者の方々に対しては、『どのような場面で、どのような姿勢でならどのような動きができるか』という視点で評価を行い、重症心身障害をかかえながらも活用できる機能を使って目的的な活動を経験することで豊かな生活をおくることができるように支援してきた。比較的意思疎通のとれる方においては、集団で活動する場を設け作品作りを行った。また、他者との意思疎通のとりにくく方に対しては、視覚・触覚・聴覚・前庭感覚等の感覚刺激に対しての反応を丁寧に観察することで、その方の好む感覚の特性を探求することができた。

外来作業療法では、ここ近年地域で生活している発達障害をかかえている子どもさんのニーズがふえているなか個別での作業療法を受け入れている。その子どもさんに関わる関連機関でのケース会などに

参加し、課題や方向性について検討し情報共有することでより良い支援に繋がった。

1. リハビリ実績

対象年齢別利用者数 (男/女比率)

	入所者	外来
6歳未満	0	9 (8/1)
6~18歳未満	0	15 (11/4)
18歳以上	47 (28/19)	15 (9/6)
合計	47名	39名

年間集計数

* 入院：入所利用者及び、医療入院・短期入所者も含む。

	入院 件数/点数	外来 件数/点数	合計 件数/点数
障害児リハ (6歳未満)	46/24975	435 / 279450	481 / 304425
〃 (6歳~18歳未満)	122 / 53235	550 / 293865	672 / 347100
〃 (18歳以上)	69 / 22475	199 / 65255	268 / 87730
脳血管リハ (II)	2526 / 944600	300 / 120400	2826 / 1065000
発達及び知能検査 (複雑)	0/0	3 / 840	3 / 840
〃 (極複雑)	0/0	3 / 1350	3 / 1350
合計	2763 / 1045285	1490 / 761160	4253 / 1806445

2. 整形外科の診察

現在、リハビリ科が窓口になり月1回の頻度で整形外科の医師の診察を受けている。

側弯や股関節脱臼・関節拘縮など整形外科の知見から利用者の方が安心して生活できるようご助言をいただいている。また職員の健康診断の一環で、腰痛に対しての診察を希望者が受けている。

平成29年度診察状況は以下のとおり

入所者	66名
通園・生活介護	5名
外 来	3名
職員	2名

3. 各種研修会への参加

- ・四国重症心身障害研究会／ひのみね療育センター見学：作業療法士 1名参加
- ・感覚統合療法認定講習会A（基礎・評価）コース：作業療法士 1名参加
- ・重症心身障害児者の呼吸リハ：理学療法士 1名参加

- ・脳性麻痺に対するボバース・アプローチ イントロダクトリーコース：理学療法士 1名参加
- ・全国重症心身障害児者施設職員研修会（医療技術管理コース）：理学療法士 1名参加

4. 研修の受け入れ

- ・中村特別支援学校 教諭 3名
期間：平成29年5月～6月 （就学児童3名の訓練指導）

5. 各関係機関からの職員派遣依頼

- ・自立活動充実事業：中村特別支援学校（訓練・摂食指導）：作業療法士 1名参加
言語聴覚士 1名参加
四万十市立蕨岡小学校（プール指導）：理学療法士 1名参加
- ・巡回相談派遣事業：言語聴覚士 1名参加（4校参加）
- ・四万十市立保育所支援學習分科会講師：作業療法士 1名参加
- ・四万十市立母子保健行政事業「わくわく広場」講師：作業療法士 1名参加

④栄養科

年度目標

- ① 食事は私たち人間にとて活力を与えてくれる源であり、さまざまな味わいを堪能できる大きな楽しみでもあります。それは障害者にとっても同様で、一日の生活のなかで『安全で美味しく夢のある食事』で楽しいものであるよう食べる事を通し摂食機能に応じた食事を心がけ、利用者の健康と幸せを目指します。
- ② 栄養ケアマネジメントを通して、個々に応じた栄養管理を適切に実施していく。

評価

- ① 新メニューの取り入れ、行事食にて季節感のある食事を通して、楽しみも感じてもらえるよう対応した。
- ② 利用者一人一人の栄養ケアマネジメントを行い、個々の栄養状態を把握し栄養管理を行った。

事業計画

- ① 笑顔が見られ充実した日々を過ごして頂くため、季節感のある行事食や地産の旬な食材を生かし、目でも楽しめる豊かな食事の提供を行う。
- ② 医師・看護師・生活支援員・薬剤師・臨床検査技師・PT・OT・ST・栄養士等、多職種での情報の共有連携をとり、利用者の状態に応じた適切な栄養管理ができるよう実践に繋げていく。
- ③ 高齢化していく利用者の食形態の検討。
- ④ 『報告・連絡・相談』を徹底する。
- ⑤ 5S『整理・整頓・清掃・清潔・習慣化』の徹底をし、業務の安全・効率化を図る。
- ⑥ 非常災害時の外部提携における書類化について、具体的に確立する。
- ⑦ 施設内勉強会への積極的参加、外部講習等の受講など各自向上心をもって仕事に取り組む。

評価

- ① 季節に応じた献立の取り組み、行事食には目で楽しめるように盛り付けの工夫を考えた食事提供を行った
- ② 利用者一人1人の栄養アセスメントを行い、状態に応じた適切な栄養管理がおこなえるよう多職種によるサポートチームの中で適切な栄養管理の検討し実施した
- ③ 利用者の年齢構成の変動に伴い、食糧構成の見直しを行った
利用者の状態に応じ、食形態の見直し、検討を行った
嚥下困難な利用者の為に、ゼリー食の取り組みを開始した
- ④ 『報、連、相』の強化に務めた
- ⑤ 5Sに取り組み業務の安全、衛生に取り組み、効率化を目指した

- ⑥ 非常災害時の外部提携は、筒井病院と継続して提携している
防災倉庫を増設して、災害時への備蓄管理を行った
- ⑦ 施設内の勉強会は積極的に参加した

平成 29 年度 給食材料費（1人1日当たり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常食 (円)	851	585	599	622	597	589	596	569	1001	612	554	613

平成 29 年度 利用者食数（月平均）

常食	普通	9
	キザミ	11
全粥	キザミ	2
	ペースト	13
全粥食	ゼリー	2
治療食	潰瘍	1
経管栄養		12

在宅支援	普通	6
	キザミ	6
	ゼリー	2
ショート ステイ	キザミ	1
	ペースト	1
経管栄養		1

栄養サポート会の実施

栄養ケアマネジメントで中リスク以上のリストアップを行い多職種で検討、討議を行った。また、誤嚥リスクも高くなつておりパン粥ゼリーの検討、Hb 低値の利用者に改善のための鉄分強化、摂食嚥下状態の評価、姿勢の検討、行事食に提供するソフト食の検討、腸内環境を改善する為の食品（ビフィズス菌）の検討、検査基準値の検討、食事形態の検討など利用者1人1人の現状を踏まえ、多職種で話し合い共有することで栄養状態の維持・改善に繋げることができた。

栄養科会の実施

毎月1回開催 食事形態を含め、利用者1人1人の把握、業務手順の見直し、問題点を挙げ、それに対して活発に話しあえる時間、討議し合える時間になった。

給食委員会の実施

2ヶ月に1回開催、病棟からの意見、情報を受け、栄養科より伝達、報告を行っている。

研修会の参加

全国重症心身障害児施設職員研修会

非常用保存食の備蓄

賞味期限の近い備蓄品は献立に取り入れて使用する。

(3) 在宅支援部

①生活介護事業「幡多希望の家さくらんばホーム」

【年度目標】

- ① 地域や家族との結びつきを重視した運営を行い、保護者会と定期的に話し合いを持ちながら利用者の健康状態や生活状態の情報収集に努め、特性や個別性に沿った療育を提供する。
- ② 職員の腰痛予防の為、内外の研修にも参加しリーダーを中心に計画的に施設の方針でもあるノーリフトを進めていく。
- ③ 現在の利用者および新規利用者のニーズを収集しなおし、サービス向上に努める。

【評価】

6カ月に1回作成される個別支援計画を基本とし、保護者・本人の意向を取り入れながら利用者それぞれの障害特性や個別性に応じた遊びや取り組みを提供できるよう心がけた。取り組みに関しては、週のリーダーが計画し、利用者の担当職員とも連携し取り組みを考え利用者に合ったものを計画・実行するよう心がけ行った。

在宅の保護者会は2~3カ月に1回開催される為、事前に開催日を確認し保護者のニーズや逆に事業所の現状などの情報も共有することが出来た。保護者の方からは、「今までさくらんばの事業の事等を聞く事もなく今まで来たけれど、自分達の子供が通っている事業の課題等も聞く良い機会となり良かった。

新規利用者については主が重心の指定を受けている事もある為、幡多地域で生活されている重心の利用者方等に相談支援を通じて情報を収集したり、重心以外の方でも知的や身体的に重度な利用者の方等からの問い合わせがあれば相談に応じている。H29年度にも新規の利用者も入られ、少しずつ利用も増えてきている。

職員の腰痛予防については、ノーリフトの方針の基にリフト使用の定着を進めている。また利用者を介助する際には、2名で介助を行うよう指導し入浴時等もストレッチャーを使用することも行っている。職員の意識も、以前に比べノーリフトの考え方が定着してきており介助方法やリフト以外の用具の浸透も出来つつある。

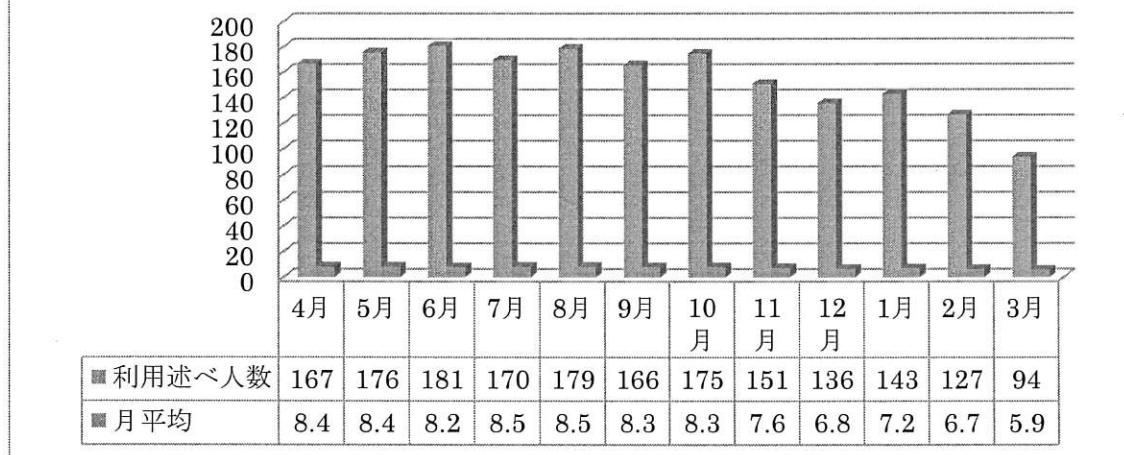
(所外研修参加状況)

H29.5月	防災委員会
H29.6月	第26回 四国重症心身障害研究会（徳島県）
H29.7月	地域災害支援ナース育成研修会
H29.10月	全国重症心身障害日中活動支援協議会（広島） H29年度 高知県障害者虐待防止・権利擁護研修

(平成29年度 月例報告)

利用月	開所日数	利用述べ 人数	月平均	利用月	開所日数	利用述べ 人数	月平均
4月	20	167	8.4	10月	21	175	8.3
5月	21	176	8.4	11月	20	151	7.6
6月	22	181	8.2	12月	20	136	6.8
7月	20	170	8.5	1月	20	143	7.2
8月	21	179	8.5	2月	19	127	6.7
9月	20	166	8.3	3月	16	94	5.9
				計	240	1,865	7.8

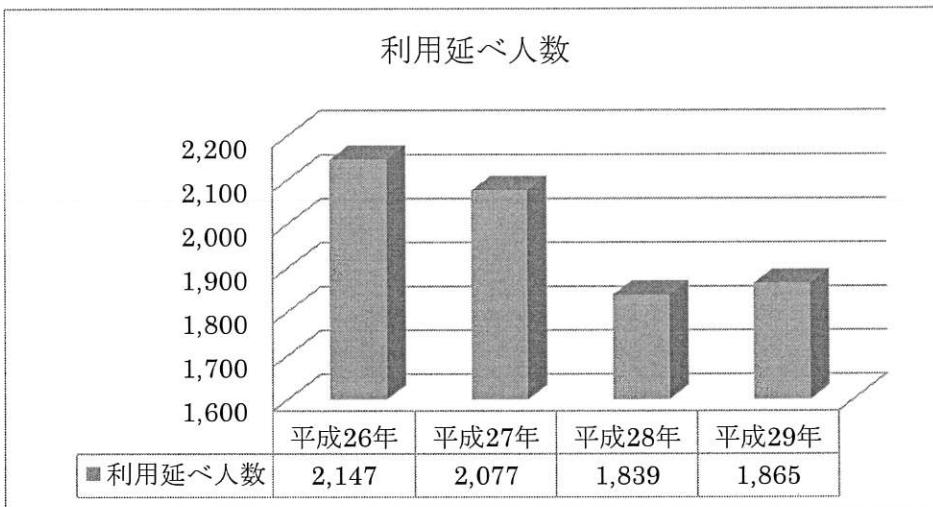
平成29年度 月例報告



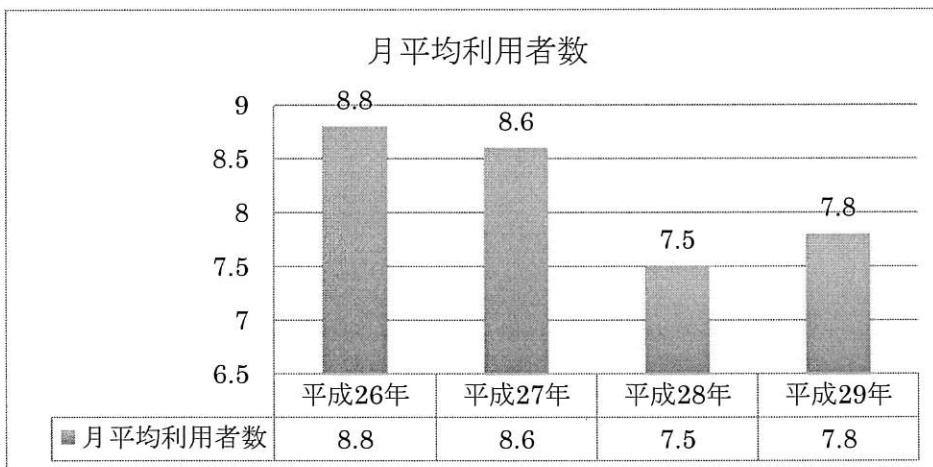
(利用者の状況)

人数	障害認定区分		障害の状況	
	6	4	重症心身障害者	重心以外
男	9	8	1	8
女	9	8	1	8
計	18	16	2	16
				2

利用延べ人数



月平均利用者数



②多機能型事業所「幡多希望の家通園センターさくらんぼ」

【年度目標】

1) 児童発達支援事業

○家族との情報交換を行い、ケース会で他職種と連携を図りながら児童の成長に合わせた療育・必要な看護ケアを行う。また、発達段階に応じた個別支援計画書を作成し定期的に評価を行う。

2) 放課後等デイサービス

○家族や学校と情報交換を行なながら、生活機能向上の為に必要な訓練や社会性を育んでいく。また発達段階に応じた個別支援計画書を作成し定期的な評価を行う。

○訪問学級終了後の利用する場合には、先生から家庭からの情報も含めた引き継ぎを確実に行う。

【評価】

1) 児童発達支援事業

H29年度は、5月・11月と新規利用者があり、年度末までには3名の未就学児の利用となった。平均週1~2回の利用であった。

医療的ケアが高い利用児が多く、発達を促すための療育と看護ケアの両方を利用時間内で取り組む事を目指して行ってきたものの、午睡の時間もあり午前中の30分程度取り組めるかどうかで難しい現状であった。家族や他機関との情報共有という面では、相談支援事業所を中心にケース会等に定期的に参加する事ができた。

近年、重症児が病院から在宅へ帰る傾向にあるものの、在宅で利用できるサービスに限りがあり家族の精神的・身体的負担も大きいのが大きな問題となっている。また成長発達が著しい時期に毎日保育園や専門機関に通う事が難しい現状にある事自体が大きな課題であるとも思う。その役割の一部分を、さくらんぼが担う必要があり来年度は発達に応じた療育に取り組んでいきたい。

2) 放課後等デイサービス事業

H29年度の利用者は、3名であった。医療的度の高い児童であり注入や吸引も頻回に行なながら、限りある時間の中で音楽活動や散歩など感覚刺激を多く取り入れていく療育を行ってきた。学校からの引き継ぎもスムーズにできた。今年度で1名学校卒業にあたる為、来年度の利用者は2名となる。(卒業児は、生活介護利用予定。)利用回数は、2/週程度であるがショートステイやお家の都合で利用回数の半分位しか実利用に繋がっていない現状もある。しかし、成長過程の児童でもあり、他利用できる事業所

も近隣にはない為今後も、創作活動・リラクゼーション・クッキング・感覚遊び・外出など様々な取り組みを提供していきたいと思う。

◆所外研修参加状況

- H29.9月 ノーリフティングケア推進リーダー養成研修
- H29.10月 第21回 全国重症心身障害児中活動支援協議会（広島）
- H30.1月 障害児通所支援事業所 行政説明会
- H30.3月 重症心身障害児及び医療的ケアが必要な子供への支援について

H29年度利用児の状況

人数	障害の状況		障害認定区分		
	重症心身 障害児	その他	3	2	1
男	3	3	0	3	0
女	0	0	0	0	0
計	3	3	0	3	0

平成29年度 月例報告

利用月	開所日数	児童発達 【平均数】	放デイ 【平均数】
4月	20	2	22
5月	21	0	22
6月	22	6	20
7月	20	8	18
8月	21	9	29
9月	20	8	20
10月	21	11	24
11月	20	12	18
12月	20	16	21
1月	20	16	22
2月	19	17	5
3月	16	4	8
計	240	109	229
月平均	20	0.5	1.0

③多機能型事業所 「幡多希望の家通園センターつくしんぼ」

【年度目標】

- 1) ライフステージに応じた支援が重要である為、家族・保育所・学校・他事業所・相談支援等と定期にケース会等を通じ、利用者の情報共有を図る
- 2) 将来を踏まえ自立した生活が送れるよう、子の発達段階や障害特性に合わせた個別・集団活動を提供する
- 3) 所内外の研修を通して、療育活動の質を上げる
- 4) 保育所（学校）等に訪問し、子の状況把握や情報共有を行い集団生活に適応するための助言を行う

【評価】

- 1) 各専門機関との情報の共有を図る

希望の家内においてはケース会として、月1回以上ケース会等を開催する事で子の情報の共有を行った。他事業所や学校関係との連携は、相談支援事業所の職員を中心にカンファレンスを行う事また必要な場合には電話連絡などで情報を共有した。

- 2) 子の発達段階や障害特性に応じた療育を提供する

H29 年度には事業所の改修工事を行い同時に別々の場所を使用し子に合わせた個別・集団活動が実施できるよう構造化を行った。現状では、1対1で行う必要のある子には、1対1で行い、小集団を希望され、時間が合えば2~3名が同時に療育を行った。

- 3) 研修を通して療育活動の質を上げる

今年度は外部研修を行った事を施設内で研修を行い、情報を共有した。療育の振り返りも都度行い、児童の状態を共有したり支援方法を検討したりした。

- 4) 保育所（学校）等にも出向き、子の情報を共有する

年間で保育所見学の予定を立て、月1回は保育所に訪問し状況把握や先生方との情報共有を行った。年長児には、就学前に保育所との計画も作成し取り組みを行った。

◆所外研修参加状況

H29. 4月 PECS レベル1 ワークショップ

H29. 6月 発達障害の身体特性と行動の理解（実践編）

H29. 7月 ・「特性を生かした支援」を考える研修会

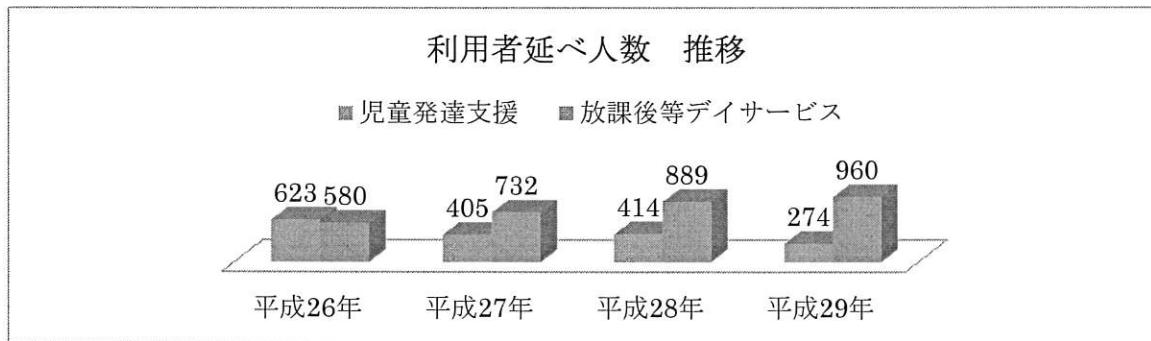
・障害児支援・こども子育て支援/個別支援計画と支援会議（メインシート

の使い方)

- ・ティーチャーズトレーニング・発達が気になる子の早期発見・早期支援
 - ・運動発達・手の定型発達・コミュニケーションの発達
 - ・H29 年度高知県相談支援従事者研修「初任者」研修
- H29. 8月 重症児の発達の見方と親支援 「ひよこ園」施設見学
- H29. 9月 青年期・成人期における就労支援・生活支援
- H29. 10月 療育プログラムについて
H29 年度高知県サービス管理責任者研修（児童分野）
- H29. 11月 「親支援」とは
- H30. 1月 「インクルーシブ教育」
- H30. 3月 軽度・重度知的障害の方それぞれへの就労支援・生活支援

(平成 29 年度 月例報告)

利用月	開所日	児童発達支援 利用延べ人数	平均 利用者数	放課後等 デイサービス 利用延べ人数	平均	保育所 延べ人数
4月	18	24	1.33	79	3.76	
5月	19	22	1.16	33	1.74	
6月	22	21	0.95	42	1.91	
7月	22	23	1.05	118	5.13	
8月	22	21	0.95	262	10.48	
9月	21	20	0.95	48	2.29	
10月	21	22	1.05	42	2.00	
11月	20	20	1.00	40	2.00	
12月	19	23	1.21	77	3.85	
1月	20	25	1.25	60	3.00	
2月	20	26	1.30	39	1.95	
3月	22	27	1.23	120	5.22	
合計	246	274	1.11	960	3.76	



④訪問介護事業「幡多希望の家 ヘルパーステーション」

【年度目標】

- ①利用者が住み慣れた地域・在宅で安心して暮らしていくよう職員のケアの質を高める為、職員の研修及び関係機関との情報交換に努める
- ②制度改正により、介護予防が地域包括システムに移行となる。それに伴い現行の訪問介護事業とまた別に緩和した基準によるサービス事業の整備が行われており等事業所のあり方も検討していく
- ③職員の人員体制を整え、利用者の増員や調整を行う

【評価】

①職員のケアの質を上げる

利用者の状態把握を職員が共通認識できるよう、月1回のスタッフ会での情報交換や年間を通して(所内研修)を定期的に計通り行い、職員がケアの質の向上を目指して取り組む事ができた。所外研修については職員の人員不足もあり一部の職員しか参加できないこともあります、参加出来ない職員には事後に伝えたり資料を配布したりした。

②地域包括ケアシステム移行に伴い、事業所のあり方を検討する

事業所説明会や地域ケア会に参加しこれからの介護保険制度の在り方の確認を行ってきた。宿毛市も、H29年度から新しく訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)がスタートし生活支援等のサービスを行うようになった。その為、既存の訪問介護事業所では身体介護を中心、生活援助では更に専門性を必要とするサービスが求められる事となっている。

③職員の人員の体制を整え利用者の増員や調整を行う

H29年度は、3名常勤・兼務2名体制で行った。兼務者の心身的負担や生活介護とヘルパーのシフトが組みづらい等、数年同じ課題が解決しないまま残っておりまた、人員の定着も出来ていない。保護者からは、新しいヘルパーが訪問に来る事に抵抗があり、同じ職員の固定を望む声が多く新しいヘルパーの投入も少しずつしか進んでいない。現状として必要な所にヘルパーを十分、投入する事が出来ておらず人員不足の解決には至っていない。訪問に十分たりうるヘルパーを置く事も経営上出来ない為、事業所としてどのような体制を取っていくのか在宅の他の事業所とも相談し連携出来るところは連携し、検討する必要がある。

【所外研修】

高知県同行援護・行動援護事業所説明会

ホームヘルパー現任研修会（障害のある人の安心した暮らしをサポートする為に）

【所内研修】

年月	研修内容
4月	
5月	事故防止・ヒヤリハットについて
6月	姿勢管理・体位変換について
7月	精神疾患について
8月	災害時の応急処置について
9月	認知症・認知ケアについて
10月	苦情解決について
11月	接遇について
12月	倫理・法令遵守について
1月	
2月	身体拘束防止について
3月	

【実績報告】

訪問介護利用者数 年度推移

サービス種類	H28 年度	H29 年度
障害者総合支援法	重度訪問介護	2
	居宅介護	4
	同行援護	1
介護保険法	訪問介護 (要介護 1~5)	1 4
	訪問型予防 (要支援 1・2)	4
合計(実人数)	18 人	15 人

H29 年度 月例報告

*人…利用人数 * () 延べ回数

利用月	開所日	訪問介護		訪問型予防		居宅介護		重度訪問		同行援護	
4月	25日	4人	(34)			4人	(15)	2人	(22)	1人	(1)
5月	27日	3人	(26)	1人	(3)	4人	(17)	2人	(22)	1人	(1)
6月	27日	3人	(24)	1人	(13)	3人	(14)	2人	(22)	1人	(1)
7月	26日	3人	(18)	2人	(19)	1人	(13)	2人	(24)	1人	(1)
8月	27日	3人	(30)	3人	(27)	4人	(17)	2人	(21)	1人	(1)
9月	26日	3人	(32)	3人	(26)	2人	(12)	2人	(23)	1人	(1)
10月	26日	3人	(25)	3人	(21)	3人	(16)	2人	(21)	1人	(1)
11月	27日	2人	(22)	3人	(26)	3人	(16)	2人	(21)	1人	(1)
12月	26日	3人	(33)	3人	(26)	2人	(13)	2人	(21)	1人	(1)
1月	27日	3人	(29)	3人	(24)	1人	(12)	2人	(20)	1人	(1)
2月	25日	3人	(25)	2人	(12)	2人	(12)	2人	(16)	1人	(1)
3月	27日	2人	(26)	2人	(2)	3人	(18)	2人	(22)	1人	(1)
合計	316日	22人	(324)	52人	(442)	38人	(169)	24人	(262)	12人	(12)

⑤相談支援事業「幡多希望の家 相談支援センター」

平成29年度は、幡多福祉圏域内で深刻な事態が発生したため、圏域内の各市町村、各福祉施設事業所、各相談支援事業所等で、ニーズ調査や幾度か連携・協議を行うなど、地域課題の解決にむけて相談業務を行った。さまざまな関係者のご理解とご協力のおかげで、当面は対応することができているが、さまざまな課題が表面化し、必要な支援の体制がまだ不十分であることから、利用者本人・家族が、困難な生活を送られている状況である。そのため、引き続き協議の場を設け、利用者が住み慣れた地域で安心して生活をおくれるよう、利用者のニーズ解決に努めていく必要がある。少しでも地域課題の解決を行うために、幡多福祉圏域の相談支援体制の強化、システム化を行うことが重要であり、より地域の関係機関との連携協力が求められると考えている。

相談支援事業の実績としては、支援件数は大きな増減はないが、さまざまな事情を抱える方がおられ、より丁寧にかかる必要性のために、関係機関と連携をとりながら、支援を展開してきたところである。

しかし、地域の福祉サービスの受けいれの実態と利用者のニーズとのバランスがとれず、ご本人・ご家族が希望される生活の実現が難しいケースがあった。また特別支援学校卒業後の進路先の課題、身体障害者・発達障害者の就労の課題、医療ケアの必要な障害児とその家族を支えていく支援体制の課題等、様々な関係機関と連携して対応をしていかなければならぬ課題も増えてきている。

【年度目標 評価】

相談があれば、利用者・保護者との信頼関係の構築を心がけ、ある程度の一連の流れにそって相談業務の展開ができたと思う。アセスメントシートや客観的な評価を活用し、ニーズ把握につとめ、必要なサービス調整を行うことができた。

しかし、継続した相談対応については、関係者と連携を図りながら調整をしてきたところではあるが、さまざまな事務処理や日々の業務に追われ、きめ細かい支援については十分とは言い難く、今後の課題であると考える。

地域との連携は、一人の相談支援専門員が解決できることは限られていることから、関係機関との協力連携は図りながら、支援の展開ができたと思う。

【事業計画 評価】

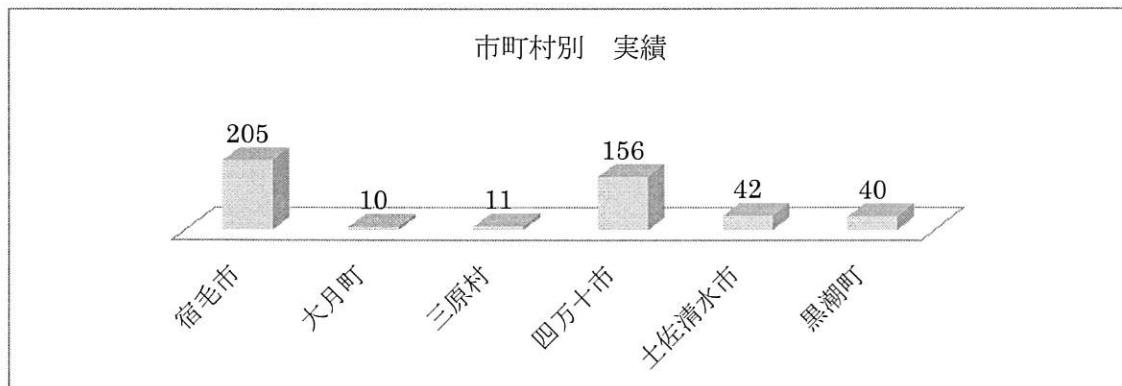
- ① ニーズの把握、課題解決・・・利用者からの相談だけでなく、こちらからも連絡を行い、状況把握に努めた。しかし、継続した支援ができないときがあつたり、対応が遅くなることがあった。
- ② 市町村・関係機関と連携・・・ケースや、地域の課題等を通じて、行政機関や関係機関との連携を図ることができたと思う。また、地域の相談体制の充実のために、各相談支

援事業所と一緒に必要な支援について検討を行った。地域移行・地域定着支援や特別支援学校との連携については、これからも継続して体制つくりを図っていきたい。

- ③ 各部署との連携・・・これまで、支援の対象者が在宅の方が中心であり、特に病棟関係部署とは入所利用者の支援に関して連携をとることがほとんどなかったが、サービス等利用計画作成を通じて、意見交換や入所者・保護者と話をする機会をもつことができた。また他部署とも必要な場合は連携をはかることに努めた。
- ④ 高知県障害児療育等支援事業の充実・・・関係部署と連携を図りながら、個別支援、保育所や学校への地域支援を行うことができた。
- ⑤ 研修・勉強会への参加・・・研修や事例検討会等の勉強会に参加し、情報収集や相談支援に関わる知識を得ることに努めた。
- ⑥ 高知県障害者相談支援アドバイザーとしての活動・・・圏域の相談支援にかかわる研修企画運営を、幡多福祉保健所や県障害福祉課と連携を図りながら行ってきた。29年度は、障害者計画、障害者福祉計画、障害児福祉計画策定時期と重なったために、各市町村内で自立支援協議会が開催され、その都度参加し意見交換をすることができた。
- ⑦ 親の会への支援について・・・29年度はあまり支援する内容はなかったが、地域によっては、保護者と交流や個別の相談について対応できた。
- ⑧ 記録・事務処理について・・・できるだけ事務作業が遅れないように心掛けたが、期限のあるものはなんとか処理はできたが、やはり遅れがちになること多かった。

(市町村別相談支援実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
宿毛市	20	12	10	14	26	25	8	12	9	23	24	22	205
大月町	1	0	2	0	3	1	0	2	0	1	0	0	10
三原村	0	1	4	2	2	0	0	0	0	2	0	0	11
四万十市	15	20	12	13	17	9	10	9	18	9	12	12	156
土佐清水市	3	3	7	6	3	2	5	3	3	4	0	3	42
黒潮町	4	4	8	3	3	2	3	3	5	2	3	0	40
合計	43	40	43	38	54	39	26	29	35	41	39	37	464



(障害児療育等支援事業)

		対象児・者障害の程度				事業区分		
		重症身心 障害児・者	知的障害		身体障害		訪問による療育指導	外来による 療育相談等
			重度	中軽度	重度	中軽度	巡回相談	
4月	1						1	
5月	2						2	
6月	2			1	1	4		
7月	2						2	
8月	2			1		3		
9月	2			1	1	4		
10月	4			1	1	5		1
11月	2					2		2
12月	2					2		3
1月	1					1		1
2月	2					1	1	1
3月	2					2		
累計	24	0	0	4	3	29	1	15

(4) 総務部

①総務課 事務

平成 29 年度においては、異動という形で 9 月より 1 名を事務に配属。

1 名増員できたことで、目標としていた事務業務の IT 化及びシステム化を推進。H29 年度はタイムカードの導入ならびに給与ソフトのクラウド化に向けた準備作業等を実施した。

事務業務の効率化・省力化に向けた更なる取り組みについては、課題を検証しながら次年度以降も継続して実施。無駄のない体制づくりの強化に努めていく。

以下に、29 年度において取り組んだ内容について、項目ごとに報告する。

1) 職員データの一元管理

職員情報をデータベース化。

このことにより集計や抽出が容易となり、大幅な作業効率化が図れた。

2) 情報の共有化

施設内 LAN を活用し、PC に共有フォルダを設定。

就業規則や給与規定などの諸規定の閲覧や一部届出様式についてファイルでの取得を可能とした。

今後は掲載する情報を拡大していくとともに、共有フォルダの活用を職員に推進していく。

3) 人材育成

ヒアリングを実施する中で、個々に目標を設定。

個々の適正に配慮した業務分担や業務量の調整を行い、役割分担を明確化することで、組織力の強化にも繋げることができた。

4) ホームページのリニューアル

既存のホームページを一新。内容の充実を図るとともに施設内外における日々の出来事を定期的にブログに掲載していくことで、アクセス数が急増。

開かれた施設づくりの一環として今後も積極的に更新を行っていく。

5) タイムカード導入に向けた取り組み

平成 30 年度からのタイムカード正式導入の決定を受けて、年明けより試験的に打刻を実施。

一定の試験期間を設けられたことで、正式運用へのスムーズな移行に繋げることができた。

6) 研修参加状況

研修参加を通じて、個々のスキルアップを図るとともに施設間交流にも努めた。

研修参加後は毎月の事務会等を通じて、研修報告を行うなど情報の共有化にも努めた。今後は、毎年定期開催される研修以外にも目を向けて、情報収集の更なる強化に努めていく。

日 程	研修内容	開催場所	参加人数
7/6～7/7	中国・四国地区民営重症心身障害児施設事務・給食担当者会議	福山市	3名
8/1～8/2, 1/26	平成29年度高知県経営協セミナー（前期・後期）	高知市	2名
8/17～8/18	平成29年度全民連医療事務研修会	高松市	2名
10/12～10/13	第21回全国重症心身障害日中活動支援協議会	広島市	1名
11/9	社会福祉会計簿記講座（財務管理）	高知市	3名
1/18～1/19	平成29年度第2回施設長・幹部職員研修会	高知市	2名
1/24～1/26	平成29年度全国重症心身障害児者施設職員研修会	大阪市	2名
2/21	平成29年度高知県身体障害者（児）施設協会・生活部会研修会	四万十市	2名
3/10	平成29年度ふくし就職フェア	高知市	2名
29年度	行政説明会（計3回）	高知市	3名

②総務課 ケースワーカー

【年度目標】

- ① ケースワーカー業務の明確化
- ② 短期入所利用者のニーズの把握
- ③ 入所希望者の把握
- ④ 成年後見人の手続きの促進および援助
- ⑤ 機関誌・ホームページの作成

【評価】

1. 前年度行った業務を見直しながら行っていく。改善できる
2. 一年を通してのショートステイのニーズ確認を行う。今年度は医療度の高い利用者が増え、利用者の組み合わせ等調整が必要な状況である。また、ご家族の就労のため、定期での受け入れが増え、休養で利用したいご家族に満足に利用してもらえない現状であるため、来年度以降施設としての受け入れの見直しが必要である。
3. 一泊旅行や取り組みに参加させてもらった。今後も関わり方等相談しながら、利用者との関わりを増やしていく。
4. 市長申立て中の利用者の手続きが進行していたが、全員の選任とはならなかったが、30年度当初には全員の選任となる予定である。現在、ご家族が手続きをされているケースがあるため、今後もサポートしていく。

5. 機関誌に関しては、今年度で6号目の発行となり、順調に進んでいる状況である。

今年度は病棟、在宅の担当職員が変わるために、内容の変更等色々と皆様に楽しんでもらえる機関誌を継続していく。また、リニューアルしたホームページでブログを更新している。利用者の活動に参加し、その様子をブログに乗せ発信していく。

③庶務課 障害者職業コンサルタント

【年度目標】

- 1、補助職員が不安なく仕事ができるようにバックアップする
- 2、障害者の方の実習の受け入れ
- 3、障害者雇用に関する助成金等の支給申請を的確に行う

【補助職員の職種および障害種類の内訳】

※H30年3月31日現在

	病棟助手	家政員	管理員	全体	障害種類
補助職員	2	2	3	7名	知的障害者 5名 発達障害者 1名 精神障害者 1名

【補助職員のおもな業務】

病棟助手	*病棟の清掃 *水分補給・歯ブラシの準備・片付 *病棟のゴミの回収	*ベッドメイキング *おしぶりたたみ *当直室の清掃(交代制で約7回/月)	*衣類の出し入れ *洗濯物たたみ *当直室の清掃(交代制で約7回/月)	*洗濯物の片付け *雑巾等の洗濯
家 政	*管理棟の清掃 (日曜日のみ)	*洗濯物たたみ *管理棟のゴミの回収	*衣類の搬送 *当直室の清掃(交代制で約7回/月)	*職員浴室の清掃
管 理	*病棟・分校記念館・交流ホームの清掃 *病棟の大型加湿器の水の補充(秋～春にかけて) *外の花木の水やり	*福祉避難所の清掃(1回/週) *草引き・草刈り *その他のメンテナンス業務(適宜、職員の指示による)		

【評価】

○目標1について

◆補助職員やその家族、現場職員および関係サポート機関などからの相談業務を主とし、職場定着のために補助職員の仕事ぶりを見守りながら適宜コミュニケーションを図ってきた。また、重要事項については業務日誌以外にも詳細な記録を多く残している。

- ◆この1年も多様な困りごとが発生したため、その都度本人の思いや関係職員の話をしつかりと確認し、原因を探りながら迅速な解決に向けて取り組んできた。しかしながら、1名は約4か月間の病休を経て7月31日付けで、もう1名は大小さまざまな問題を解決しきれないうちに、結果的にはご家族からの意思表明を受け11月30日付で、2名とも自己退職に至った。
- ◆2名の欠員を補うべく10月および翌年1月、計2名の実習生が新入職し、各現場での巡回や指導、調整を行う。
- ◆近隣の支援機関の職員の方々とは十分な連携が取れており、大変心強い存在となっている。また、県の障害福祉課就労支援チームの担当職員の方もほぼ毎月巡回訪問してくれた。
- ◆当施設にとって補助職員の存在が必要不可欠であることは言うまでもない。ただ、補助職員の日常業務に関しては、おそらく周囲の目には順調に遂行できているように映るであろうが、実際に同じ部所で共に働く側の職員の見解は必ずしもそうではない。適切な指導をしていても時の経過とともに、またはある日突然に作業の内容や方法・手順が自己流となっていることが多々あるため、ますます具体的な再指導が必要となる。この悪循環はずっと繰り返されてきており、その都度、所属職員と連携し言葉かけや指導など工夫しながら関わってきた。
- ◆上述の課題や日頃の問題点・解決策、そして補助職員に関する肯定的側面の状況などをお互いに共有し合うため、家政職員・病棟助手職員との協議の場を設けた（管理職員とは総務部会の中で定期的に協議）。今後も関係職員との連携を大切にしつつ、補助職員の職業人としてのモチベーション・レベルアップに向けて根気強く取り組んでいく。
- ◆職員健診・予防接種時の誘導・問診票、メンタルヘルス対策のストレスチェックや各種アンケートの回答についての説明と回収、さらには施設の様々なイベントなど、業務以外の必須事項についても1人ひとりにより解りやすい伝達を心掛け、補助職員の意向を尊重しつつ段取りをつけてきた。
- ◆2月には補助職員を中心に施設内外の職員との交流を目的とする「第6回 補助職員を囲む新年会」を開催した。理事の方々や施設外の支援者7名を含む25名の参加が得られ、補助職員・職員合同の出し物や景品のくじ引きを盛り込み、大いに盛り上がった。
- ◆私生活においても相談ごとや困りごとが複数浮上したため、当該補助職員とは個別に話をする必要が何度かあった。また、年度末には1名が、本人の強い希望でグループホームを退所し新年度よりアパートで自活することとなり、相談先の相談支援センターでは職員の方の丁寧な対応が大変有難かった。今後も補助職員のプライバシーに配慮しながら慎重に進めていく。

○目標 2について

【実習生受け入れ】

事業所等	人数	期間	就労の有無
高知県立中村特別支援学校	1名	6月5日 ～6月16日	なし
就労継続支援(B型) ワークセンターすくも	1名	8月21日 ～9月29日	10月1日付で入職(家政)
障害者就業・生活支援セン ターラポール	1名	H30年1月10日 ～1月24日	H30年1月25日付で入職(病棟助 手)

◆中村特別支援学校より初めて実習依頼があり、喜んで受けさせて頂いた。当時、対象者が高等部2年生であったため就労には至らなかったが、関係者から、その生徒さんの卒業後の就職先は当施設への希望が今でも強いと聞いている。

○目標 3について

【助成金支給申請等の種類】

※()は前年度

申請の種類	人数	申請先
障害者雇用調整金	9(7)	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
最低賃金の減額の特例許可の申請	2(2)	高知労働局 四十万労働基準監督署

◆調整金の申請については、退職者2名を含む。

◆10月、高知県の最低賃金額が737円に改定された。(前年は715円)それを基とし、29年度も2名について「最低賃金の減額の特例許可」の申請を行い、許可が下りた。

④庶務課 家政

【年度目標】

利用者の衣類等に目配りしながら業務を進めていくとともに、建物内(管理棟)の清潔を確保する

【評価】

洗濯業務に関しては電解水の使用にも慣れ、洗濯物の汚れの種類により一部洗剤を使用したり、つけ置き対応を行っている。衣類洗濯では感染予防等での利用者個々の対応を随時行っているが、現状の洗濯スペースは狭く、シンクの数も少ない為に対応が難しい事も増えてきている。また、寝具等の枚数管理が正確に行えていない事もあり、来年度以降の課題として家政員の中に責任者の配置を検討している。

⑤庶務課 管理

【年度目標】

利用者・職員の生活職場環境を整備・施設整備点検を日課とする

【管理業務全般の報告】

公用車 洗車	・外装、タイヤ、内装、マット、掃除機掛け、ガラコ掛け
草刈作業	・斜面、中庭、道路擁壁、敷地内、周辺敷地外
施設内作業	・換気扇、エアコンフィルター、空気清浄機フィルター等、常時点検・掃除 ・厨房内オイルダクト、フィルター類定期的に洗浄 ・電解水生成装置の塩補充、家政洗濯機グリスアップ、洗濯機エアフィルター定期的に掃除
敷地内美化活動	・花壇整備
農作業	・栽培 収穫

III 各委員会報告

①医療安全管理委員会

【H29 年度 活動内容】

- | | |
|--------------------|-----------|
| ・ 医療安全管理委員会 | 第 1 火曜日／月 |
| ・ 医療安全（感染・褥瘡）推進委員会 | 第 3 水曜日／月 |
| ・ 病棟ラウンド | 25 日／毎月 |
| ・ 緊急カンファレンス | 40 回／年 |
| ・ 医療安全情報 | 隨時 |
| ・ マニュアル改正・新設 | 2 回／年 |

・ 医療安全研修

5/27 「H29 年度 ヒヤリ・事故集計報告」
「KYT」

10/28 「医療安全について」「薬について」

・ 医療安全推進活動

11/1～25 医療安全ポスター募集 11/26～12/1 貼りだし
H30/1/4 朝礼にて表彰

【評価】

前年度と比べ、事故報告件数・ヒヤリ報告書提出件数の大きな差はなかった。内容的にも前年度同様、「転倒・骨折」「薬」が多く、その背景には利用者の高齢化、高度な医療を必要とする児の SS・TS の受け入れ等様々な要因が考えられる。医療安全は医療の質に関わる重要な課題であるが、当施設のように医療と生活が混在する場では医療だけでなく介護面においても「安全性」が重要と考える。その為には職員個人レベルでの事故防止対策と医療施設全体の体制的な事故防止対策をとる事が最も重要であると考えます。

当施設でも集計結果から分かる様に「インシデント・アクシデントレポート」報告制度は定着してきたと思われます。今後は定着から「分析方法や改善策の立案方法」といった充実が図れる様、必要な知識・手法を習得し、より有効な安全対策の立案に結び付けていくよう活動していきたいと思います。

②安全衛生委員会

月に 1 回の会を開き以下のことを検討・実施。

1) 職員健診 5 月 10 月

- 2) 腰痛対策 ・リフト推進委員会を中心に「床走行式電動リフト」「マルチグローブ」「スライディングシート」の活用促進 ※リフト使用チェック表の作成
マルチグローブ支給（直接介護に携わる職員全員対象）
- 3) ストレスチェックの実施 ・・・全職員 123 名のうち 99 名が受験
- 4) 在宅支援事業所での腰痛対策 ・・・「床走行式電動リフト」1 台導入
- 5) 禁煙への取り組み ・・・喫煙場所の撤去（2 箇所の内 1 箇所）
- 6) 年間休日数の増 ・・・特別休暇（夏期 1 日 年末年始 2 日）
- 7) タイムカード導入準備 ・・・H30 年 4 月から運用開始（適正な労働管理）

③褥瘡対策委員会

平成 29 年度、褥瘡発生者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	1人	2人	0	0	0	0	1人	1人	0	0	0

今年度も褥瘡対策診療計画書を作成した上で、褥瘡リスクの高い利用者に対して、栄養機能食品『アイソカルサポート』、タンパク質補助食品「エコフロー」使用し、定期的な採血を行い、栄養状態の評価を行い悪化は見られていない。ステージⅡの褥瘡発生があり、適切な処置を行い一週間で治癒している。2 時間毎の体位変換、マルチグローブでの除圧、離床を促す事で電動エアマットの除去を行い、皮膚トラブルもなく褥瘡発生もなかった。今後も全身状態の観察を十分に行い、褥瘡予防に努めていく。

④感染委員会

- ・毎月第 4 木曜日に安全推進・感染委員会実施。

【平成 29 年度　まとめ】

今年はインフルエンザ罹患者の受け入れがあったが、臨時に緊急カンファレンスを開き予防策を早期にとる事で利用者への罹患はなくその効果は大きかったと思われる。しかし、在宅支援部でのインフルエンザのアウトブレイク（集団発生）があり、閉鎖を余儀なくされた。その結果をふまえ、在宅支援部でのマニュアル作成、他部署との連携等を再検討するに至った。

病棟内では、現場での感染対策の意識向上を図り、手指衛生の徹底を職員に啓発することを活動として委員が中心となり行った。

【今後の課題】

病棟だけではなく施設全体としての感染対策への取り組みが必要。その為には共通するマニュアルの作成・見直しが重要であり職員への指導も行っていかなければならないと考える。

【月別活動報告】

月	活動内容
4	①利用者・職員の定期検診実施 ②感染マニュアル『吸引の手順』を4月1日改訂
5	①病棟に使い捨ておしぶり機を1台設置→主に処置や経管栄養の利用者さんの口腔ケア時に使用 ②製氷機の再稼働→管理をパート職員へ(1回/週 清掃・乾燥)
6	①吸引器用のカートを10台購入 ②小さな虫が大量発生した為、病棟の窓を開放厳禁とする。
7	①看護部長、看護職員：針刺し事故の講習参加→マニュアル見直し・改訂(HIV追加)
8	①擦り込み式アルコール消毒の吸引器設置分を撤去(殆ど使用していない為) ②入浴回数を増加→真菌等の皮膚疾患の増減に注意
9	①擦り込み式アルコール消毒の使用量が減少。抜き打ちで使用しているかチェックし手指衛生の啓発に取り組む
10	①感染勉強会実施→「入れ歯管理・O157について」講師：山本施設長 ②10/23、31 ハンドチェッカーによる手指衛生・アルコール消毒携帯チェック実施
11	①インフルエンザ予防接種実施
12	①12/6～マスク着用義務開始(ポスター掲示) ②大型加湿器(リース)4台設置(うめ1台・もも1台・さくら2台)
1	①病棟内パソコンのキーボードとマウスの清掃・消毒を開始
2	①2/2～もも部屋で原因不明の発熱・鼻汁といった症状が蔓延→もも部屋のみ閉鎖処置実施 ②2/5 医療入院の利用者がインフルエンザBに罹患→緊急感染対策委員会実施 ③感染勉強会実施→「食品衛生について」講師：管理栄養士 福岡
3	①在宅支援でのインフルエンザ罹患が利用者9名・職員5名確認される→通園閉鎖処置実施。在宅支援部の「インフルエンザ感染対策」マニュアルを作成。

⑤防災委員会

H29年度は、火災訓練・地震火災訓練・風水害訓練・夜間訓練を実施。

風水害訓練では台風に備える訓練を初めて実施し、来年度以降も継続して行うこととした。

また、地震への備えとして頭上より高い位置にある開き戸の施錠、地震への備えとして各事業所のヘルメットの常備を増とした。

自動火災報知機と消防署との連動装置の切替を実施、以後は火災報知器が作動すれば自動で消防署に通報となったので、これまでの訓練計画は通報訓練の一部修正となった。

※平成30年3月18日(日)：第6回目となる地区との合同防災訓練を実施(詳細はP5)

平成29年度 防災避難訓練実施 報告書					
	時間帯	想定	対象職員	実施日	備考
4月	昼間	火災	全体	4月26日	
5月	昼間	地震・火災	全体	5月24日	
6月	夜間	火災	夜勤・遅出・宿直員・医師	6月22日	18:10:図上訓練 19:00:夜間訓練
7月	昼間	台風・火災	全体	7月26日	
8月	昼間	地震・火災	全体	8月31日	消防との合同訓練
9月	夜間想定	火災	夜勤・遅出・宿直員・医師	9月27日	
10月	昼間	地震・火災	全体	10月25日	
11月	昼間	火災	全体	11月22日	
12月	夜間想定	火災	夜勤・遅出・宿直員・医師	12月27日	
1月	昼間	地震・火災	全体	1月31日	
2月	昼間	火災	全体	2月28日	
3月	夜間想定	火災	夜勤・遅出・宿直員・医師	3月28日	

⑥研修委員会

4月の委員会で年間活動計画を作成し、計画書に沿って委員活動を実施した。研修会については昨年度のアンケート調査をもとに研修内容及び担当決定を決定。研修会は当日業務以外の職員ほぼ全員が参加し、準備から後片付け・参加状況のチェックを当日実施。協力しながら行うことでスムーズに実施できた。以前は外部講師依頼に関して上司へ依頼するような状態であった為、今期は「外部講師依頼の流れ：マニュアル」を作成し、担当委員が依頼文書及び礼状の発送等を行い不備なく行えた。1回／年の実践報告では、指導者が上司である為、スタッフ指導を始め進行状況を上司に確認し、報告会への準備を進め、無事終了した。

全員参加の研修会（4回／年）では勤務等の都合により参加できない職員はDVDの視聴となるが、昨年度までは各自がDVDデッキを使用していた。しかし、視聴が業務内であったり、私語をしながらの視聴であることが判明し、DVD視聴も当日参加状況のように実施する必要があると判断。視聴期間を2週間と定め、交流ホームでの視聴を義務付けた。しかし、2週間という期間を設けてもなかなか参加できない状態の為、上司に協力を求め指導を行ってもらうこととした。それでも期間内で完全に視聴が終了しないのが現状である。研修会は年間11回実施したが、参加状況は全員参加研修会以外ではかなり低い状態である。上半期・下半期に分けて、個々の参加状況を部長及び各部署の科長に報告し指導を仰ぐが、全体的に見ても50%に到底満たない参加状況であった。変則勤務がない部署の参加率は比較的高いが、病棟職員の参加率が低いのが現状である。

研修委員としての活動は委員個々が責任感を持ち実施できたと考える。平成30年度より、研修委員会は廃止となり上司（科長）へ引き継がれることとなつたが、今期の委員会活動をもとに今後の課題を以下に示す。

【今後の課題】

※ 研修会の参加率の向上

- ① 昨年度のアンケート調査で「参加型で実践に役立つ研修会の希望」が多く見られた為、研修内容の充実を図る必要がある。
- ② 全員参加が必要な研修会では今期より手当てが出るようであるが、それ以外の研修会参加がさらに低迷する可能性がある。職員個々が「自分の勉強の場」として認識でき参加できるよう意識改革が必要ではないか？（要指導）
- ③ DVD 視聴用 DVD の音声が聞こえにくいとの苦情があり、対応が必要である。

IV 資料

① 入所者数・年齢層（25歳～86歳）・平均年齢

年齢	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	入所者数（計）	平均年齢
男性	1	1	10	6	5	5	0	0	28名	44.1
女性	0	3	4	2	5	2	2	1	19名	49.4
計	1	4	14	8	10	7	2	1	47名	46.7

※定員51名。うち、入所定員48名、短期入所定員3名（空床型）。

※11/13、1名退所（1名死亡） 7/13、12/17 2名入所

②家族の来所状況

a. 《面会》

※（ ）内は28年度分

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
さくら A 12名	延件数	22	24	30	51	59	53	63	54	64	43	15	35	43件 (21)
	実人數	7	8	8	9	9	10	10	8	9	11	5	6	8名 (7)
さくら B 11名	延件数	21	29	26	25	20	13	25	17	23	21	6	23	21件 (38)
	実人數	9	8	9	6	11	8	8	9	8	9	8	8	8名 (10)
うめ 12名	延件数	10	12	8	6	8	5	9	7	9	6	1	11	8件 (11)
	実人數	5	10	6	5	7	4	5	6	8	5	1	8	6名 (8)
もも 12名	延件数	15	15	9	18	22	10	27	17	18	16	4	16	16件 (13)
	実人數	6	6	6	7	6	6	8	4	7	6	4	7	6名 (6)
全体 実人數	24 名	32 名	28 名	28 名	28 名	28 名	28 名	22 名	32 名	28 名	15 名	29 名	27名 (29)	

※年間を通して面会が3回未満の利用者は12名であった。そのうち、1度も面会のなかつた利用者は4名。

b. 《イベント》

※()内は28年度分

	① 家祭 (5/21)	② 夏祭り (7/16)	③X'マス会 (12/17)	④合同防災 (3/18)	平均計
さくらA	7 (10)	9 (8)	8 (6)	4 (0)	7名(5)
さくらB	8 (8)	6 (7)	7 (5)	4 (1)	6名(5)
うめ	9 (10)	5 (8)	6 (8)	6 (0)	7名(6)
もも	7 (6)	7 (7)	7 (5)	5 (0)	7名(4)
計	31名(34)	27名(30)	28名(24)	19名(1)	26名(24)

※今回も保護者の参加数は横這い。夏祭り・希望の家祭においては案内状のほか、事前に電話などで参加を促し、確認をとっている。

③帰宅（外泊）状況

※()内は28年度分

部屋		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	実人数
さくらA 12名	外泊件数	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4件(2)	2名(1)
	のべ日数	0	2	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0	7日(3)	
さくらB 11名	外泊件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1件(8)	1名(4)
	のべ日数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2日(17)	
うめ 12名	外泊件数	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	5件(6)	3名(3)
	のべ日数	0	2	0	0	0	2	0	0	2	7	0	0	13日(14)	
もも 12名	外泊件数	1	0	0	0	0	0	2	0	2	3	0	1	9件(6)	5名(1)
	のべ日数	3	0	0	0	0	0	4	0	3	6	0	3	19日(16)	
計 48名	外泊件数	1	2	0	0	0	1	4	0	4	6	0	0	18件(22)	11名(9)
	のべ日数	3	4	0	0	0	2	8	0	6	15	0	0	38日(50)	

※家族の高齢化と比例して利用者自身の加齢・機能低下・重症化等が進み、年々帰宅（外泊）が困難となっていくのは否めないが、今年は10月に一泊旅行を行い、外泊者が増えたが、年末年始の帰省に関しては年々減少している。

④成年後見制度利用の進捗状況（対象者 47名）

内訳 部屋	対象者	選任済 み	親族 後見人	第三者 後見人	準備中 (市長申立)	措置	未成年
さくら A 12名	12	11	11	0	0	0	1
さくら B 11名	11	11	9	2	0	0	0
うめ 12名	12	11	8	3	1	0	0
もも 12名	12	10	8	2	2	0	0
全体 47名	47名	43名	36名	7名	3名	0名	1名

※未選定3名の利用者については、2市において市長申立てを委託している。宿毛市に関しては、現在手続き中ではあるが、29年度中の選定とはならなかった。（※30年度当初に全員選定された。）　土佐清水市については29年度に手続きが開始され、後見人の選定となった。

また、29年に入所された方でご家族が手続き中の方がいるため、今年度もサポートを継続していく。

⑤外部受入れ

※（ ）内は28年度分

月 内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
見学	0	2	0	0	5	0	0	8	0	0	2	0	17名(33)
福祉体験 学習	10	8	0	44	0	0	0	49	0	0	0	0	3校111名 (3校27名)
研修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件0名 (0件0名)
現場実習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0校0名 (0校0名)
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0施設0名 (0施設0名)
ボランティア	5	61	5	16	4	5	5	4	10	2	0	2	延119(110)
計	15 名	71 名	5 名	60 名	9 名	5 名	5 名	61 名	10 名	2 名	2 名	2 名	延247名 (199)

※昨年は学校等からの実習の依頼はなかった。中学生福祉体験学習については、毎年来て

くれている東中学校に加え、宿毛中学校が久しぶりの受け入れとなった。また、大月小学校からも依頼があり、継続して依頼があり、多数の受け入れとなった。

※近隣の四万十看護学院の学生が希望の家祭にボランティア多数参加して頂いた。

※12月～3月はインフルエンザ等の感染症予防対策強化期間のため、受け入れを控えている。

⑥短期入所受入れ(下段は日中一時支援)

※()内は28年度分

登録 23名	宿泊なし		宿泊あり			全件数	全体 のべ日数	全体 実人数
	件数	実人数	件数	のべ日数	実人数			
4月	16(5)	3(2)	23(22)	93(72)	11(6)	66(38)	136(88)	15(11)
	27(11)	4(3)						
5月	15(10)	4(2)	23(26)	89(97)	13(9)	68(53)	113(124)	17(15)
	30(17)	5(4)						
6月	19(4)	5(1)	27(28)	94(92)	12(10)	76(53)	143(117)	15(14)
	30(21)	3(3)						
7月	18(4)	4(4)	29(7)	97(24)	12(5)	73(12)	141(29)	17(9)
	26(1)	6(1)						
8月	22(12)	4(3)	25(27)	97(87)	12(10)	76(56)	148(116)	17(16)
	29(17)	6(3)						
9月	19(1)	5(1)	29(26)	91(93)	11(10)	72(43)	134(110)	15(14)
	24(16)	5(3)						
10月	22(6)	5(2)	32(31)	100 (103)	12(13)	75(51)	143(123)	17(17)
	21(14)	5(4)						
11月	24(35)	7(4)	27(25)	89 (113)	12(11)	69(76)	131(164)	17(20)
	18(28)	4(5)						
12月	25(16)	5(3)	26(22)	91(104)	10(9)	76(68)	141(150)	16(17)
	25(30)	8(5)						
1月	19(10)	4(3)	24(20)	74(83)	8(10)	70(47)	120(110)	13(17)
	27(17)	5(4)						
2月	10(11)	4(4)	9(19)	24(77)	7(10)	31(49)	46(107)	12(17)
	12(19)	4(3)						
3月	26(23)	6(4)	23(30)	73(99)	10(12)	63(92)	113(161)	13(20)
	14(39)	4(4)						

合計	235 件 (137)	—	297 件 (283)	1012 日 (1044)	—	815 件 (650)	1530 日 (1464)	—
	230 件 (166)	—						
月平均	20 件 (11)	—	25 (23)	84 (87)	—	68 件(53)	128 日 (116)	—
	24 件 (19)	—						

※29 年度は医療度の高い新規の利用者の受け入れのため、他の利用者との利用調整が必要であった。そのため、利用日数の増加とはならなかった。

日中一時に関しては、就労されているご家族が 2 名新たに利用が始まり、利用日数は増加している。

※年間の 1 日平均は、宿泊 : 2.8 名、日帰り : 2.2 名となっている。

資料（事務）

①採用・退職の状況

(H29.5.1 ~ H30.4.30)

区分	採用		退職	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師		1		
看護部	看護科		1	
	生活支援科	1	3	2
診療部			3	
総務部		2	1	1
在宅支援部	1		1	1
合計	2	6	8	4

②雇用形態

(H30.4.30 現在)

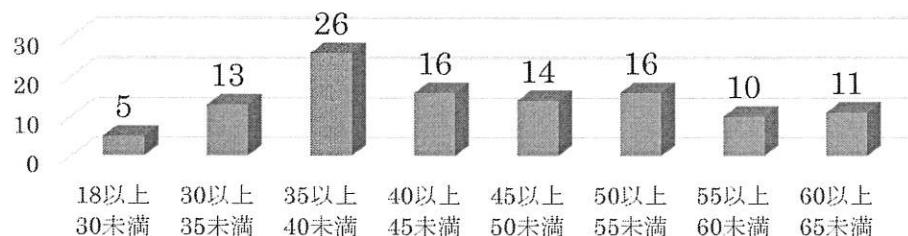
* 4/30 退職者含む

区分	職種	常勤	非常勤	計	備考
施設長	医師	1		1	
診療部	医師		5	5	
	薬剤師	1		1	
	検査技師	1		1	
	言語聴覚士			0	
	作業療法士	2		2	
	理学療法士	2		2	
	管理栄養士	1		1	
	栄養士	2		2	
	調理員	5		5	
	看護師	16	1	17	
看護部	准看護師	5		5	
	生活支援員	23		23	
	病棟助手	3	2	5	
	清掃員		3	3	
	入浴介助員		3	3	
	事務員	8		8	
総務部	ケースワーカー	1		1	
	障害者職業コンサルタント	1		1	
	家政員	3	2	5	
	管理員	1	3	4	
	送迎介助員		2	2	
	当直員		2	2	
在宅支援部	在宅支援相談役		1	1	
	相談支援員	1		1	
	看護師	1		1	
	准看護師	1		1	
	支援員	6		6	
	児童指導員	4		4	
	保育士	2		2	
	訪問介護員	2	2	4	
合計		93	26	119	

③年齢 (H30.4.30 現在)

部署名		18以上 30未満	30以上 35未満	35以上 40未満	40以上 45未満	45以上 50未満	50以上 55未満	55以上 60未満	60以上 65未満	65以上	合計
医 師										1	5
看護部	看護科	1			2	3	6	7	3		22
	生活支援科	4	3	4	9	5	2	4	2	1	34
診療部		2			2	1	2	6	1		14
総務部		1	1	5	2	3	1	2	5	3	23
在宅支援部			1	2	10	1	2	1	1	2	20
合 計		8	5	13	26	16	14	16	10	11	119

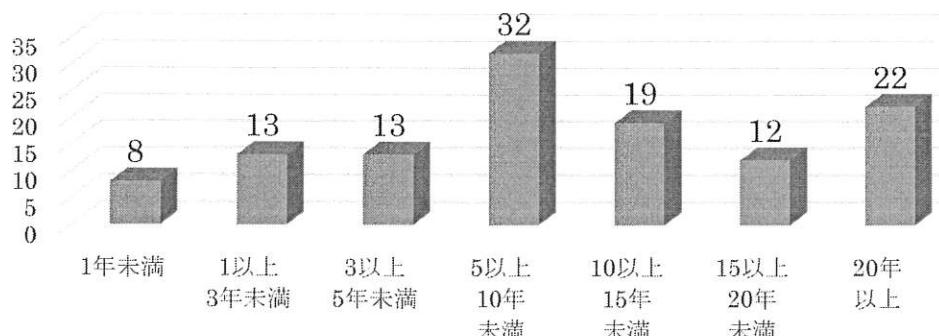
職員 年齢構成【全体】



④勤続年数 (H30.4.30 現在)

部署名		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計	平均勤続年数
医 師		1	1		3	1			6	6年0ヶ月
看護部	看護科		4	1	4	5	3	5	22	11年9ヶ月
	生活支援科	4	1	4	8	7	4	6	34	10年10ヶ月
診療部			3	1	1	1	5	3	14	13年1ヶ月
総務部		2	1	2	12	2		4	23	8年11ヶ月
在宅支援部		1	3	5	4	3		4	20	8年8ヶ月
合 計		8	13	13	32	19	12	22	119	10年3ヶ月

職員 勤続年数【全体】



平成 29 年度 入院・外来患者月別状況								
	入院		外来					
	月末	在院患者	件数	内 17 歳以下	内 18 歳以上	外来患者	初診	再診
	在院患者	延数				延数		
4 月	46	1379	113	68	45	239	2	237
5 月	45	1402	108	64	44	226	4	222
6 月	45	1377	118	73	45	262	3	259
7 月	47	1442	112	68	44	251	5	246
8 月	47	1457	108	66	42	241	2	239
9 月	46	1399	108	64	44	231	3	228
10 月	48	1463	87	48	39	211	3	208
11 月	46	1406	90	54	36	208	2	206
12 月	47	1447	89	46	43	215	5	210
1 月	47	1458	87	46	41	204	9	195
2 月	47	1330	77	43	34	155	2	153
3 月	46	1429	78	38	40	175	5	170
合計	557	16989	1175	678	497	2618	45	2573
平均/月	46.42	1415.5	97.92	56.5	41.42	218.17	3.75	214.4
平均/日		46.54				7.17		

【建物】

内 容	金 額
防災倉庫	1,134,000
防災倉庫	831,600
記念館改修工事	2,484,000
記念館改修給排水・電気設備工事	885,600
トイレ洗面・流し台取替（生活介護事業）	285,867

【構築物】

内 容	金 額
顕彰碑（20周年記念）	280,000
もも部屋 テラス・屋根増設工事	2,315,520
中庭舗装工事	270,000
災害用バルク設置工事	3,710,880

【車両及び運搬具】

内 容	金 額
レジアスエース（リフト車輌）	4,080,260

【土地・建物賃借料】

内 容	金 額
交流ホーム 土地借料 ※宿毛市	600,000

【補助金 助成金】

補助金・助成金名称	内 容	補助・助成金額	総事業費
高知県社会福祉施設等地震防災対策推進事業費補助金	防災倉庫（2） 設置	543,000	1,965,600
石油製品利用促進対策事業費補助金	災害用バルク設置	1,718,000	3,710,880

【寄付金】

年月日	寄付者 氏名	寄付金額
H29.4	個人	20,000
H29.5	肉舗デバリ	5,000
"	ふくちゃん	5,000
H29.7	個人	100,000
H29.10	個人	1,000,000
H29.12	個人	50,000
"	(有)カンキュー ラッシュバイパチコ	100,000

【寄附物品】

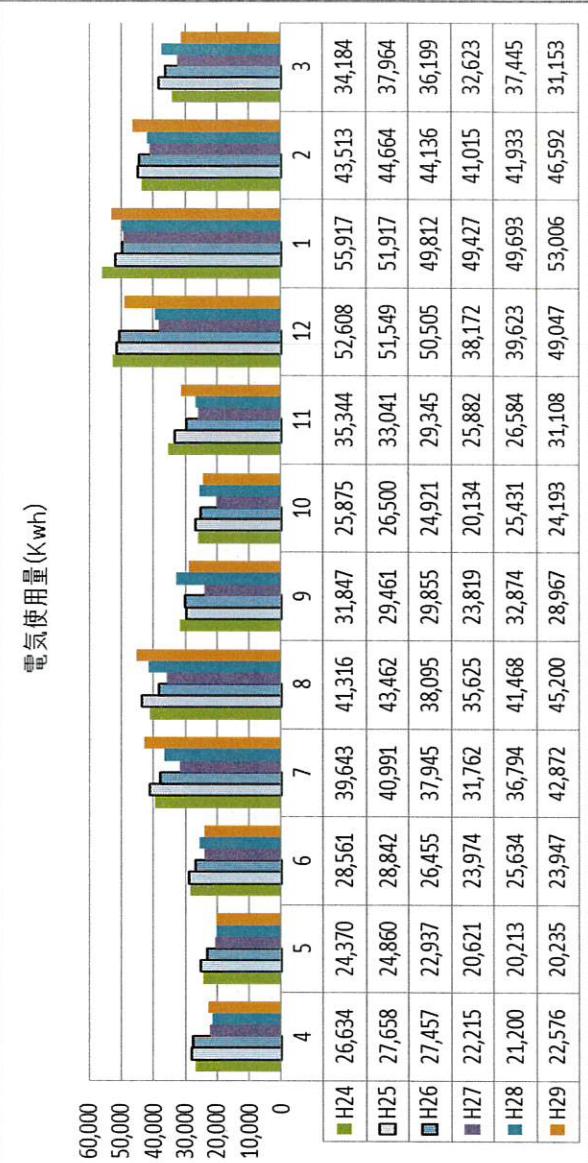
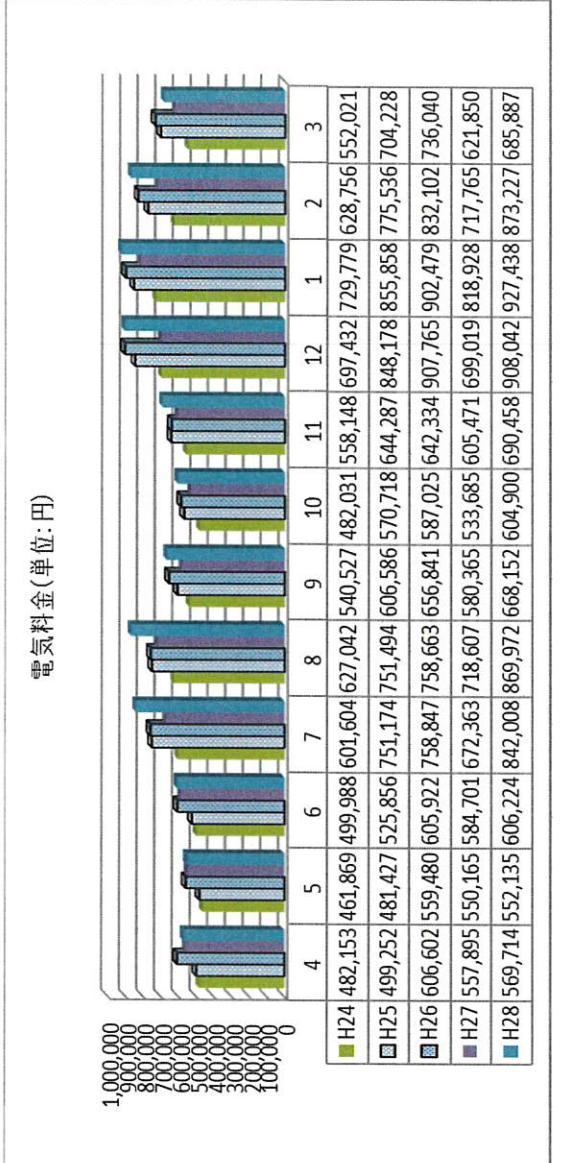
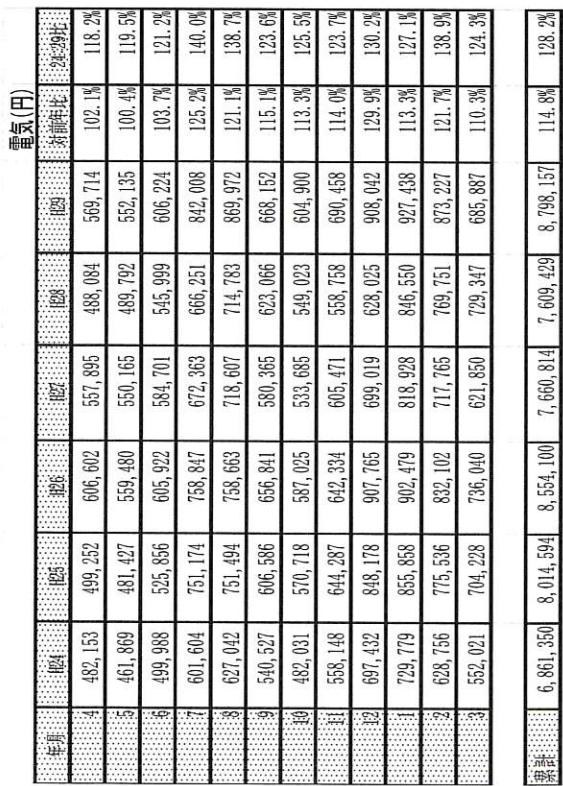
年月日	寄付者 氏名	寄附物品
H29.4	個人	衛生用品
H29.5	個人	衛生用品
H29.7	個人	衛生用品
H29.8	四国コカ・コーラボ"トリンク"（株）	水（2L 6本入）75 ケース
"	個人	米 15Kg
"	個人	衛生用品
H29.9	個人	衛生用品
	個人	衛生用品
H29.10	個人	衛生用品
H29.11	個人	衛生用品
H29.12	個人	衛生用品
H30.1	個人	衛生用品
"	個人	衛生用品

平成 29 年度事業報告

平成 29 年度事業報告には、「社会福祉法施行規則」第二条の二十五第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 30 年 5 月
社会福祉法人 幡多福祉会

[光熱水費]



年月	H26	H27	H28	H29	前年比
4	240,925	216,702	168,239	191,405	113.8%
5	210,971	187,665	160,092	177,333	110.8%
6	225,349	187,356	149,264	152,796	102.4%
7	206,842	154,230	149,756	152,265	101.7%
8	205,555	180,301	121,140	139,515	115.2%
9	202,534	148,303	130,430	151,503	116.2%
10	206,196	155,149	122,275	169,355	138.5%
11	220,255	169,028	147,713	194,045	131.4%
12	212,508	184,863	171,962	206,013	119.8%
1	229,788	217,170	174,074	222,603	127.9%
2	203,036	190,660	201,205	238,413	118.5%
3	191,255	159,510	189,861	183,415	96.6%
計	2,555,214	2,150,937	1,886,011	2,178,661	115.5%

